

久保・長江中学校区の学校再編に係る第3回土堂小学校区地域説明会議事録

- 1 日 時 令和5年7月13日（木） 18:00～21:55
- 2 場 所 土堂小学校体育館
- 3 出席者 地域住民 79名
教育委員会事務局 11名
宮本教育長、川鱈教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長
宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課主任、岡田庶務課主任
梶原庶務課主任

4 進 行

担 当	内 容
宮本教育長	<p>18:00～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>皆様、こんばんは。</p> <p>お忙しい中、説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>第2回の地域説明会を、6月3日（土）に開催し、小中一貫教育校で目指す教育内容等について、ご説明申し上げましたが、その際、特に施設面から、なぜこの度の学校再編の提案に至ったのか、教育委員会の説明や、ご質問に対する回答が不十分であったかと思っております。本日の説明会では、前回いただきましたご質問に回答させていただくために、施設面から、より具体的な説明を準備してまいりましたので、それをお話させていただきたいと思っております。そして、その説明に対して、皆さまからのご意見やさらなるご質問を頂戴出来たらと考えております。</p> <p>その前に、少しお時間をいただき、この度の学校再編についての私の考え（思い）を述べさせていただきたいと思っております。では、ちょっと座って失礼いたします。</p> <p>この体育館はですね、私、平成30年度から3年間、この小学校の校長をさせていただいて、大変思い出の深い体育館でございます。毎朝、子供たちですね、土堂っ子太鼓の音がですね、校長室に聞こえてきました。そうすると私はもう校長室の椅子に座っていることができなくなりまして、子供たちの練習している様子を見たくて、見たくて、しょうがなくなりまして、こちらの体育館に、朝よく来て、練習風景を見ておりました。その太鼓の音というのはですね、下の商店街にも響いておりました。私も出張にですね、商店街を歩いて市役所の方に朝行くことがございましたけども、その時は子供たちのその太鼓の音が、ここまで</p>

聞こえるんだなと思いながら、よく歩いていたものです。また、入学式や卒業式をこの体育館で行っておりましたし、また、教育研究会をここで行ってですね、全国からたくさんの先生方が、土堂小学校に学びたいということで、そういうたくさんの先生方においでいただいた、そういう思い出深い場所でございます。そういった土堂小学校の校長としてすごく複雑な気持ちでございますけれども、学習集団の適正な規模の確保を図り、切磋琢磨する教育環境を整えていく観点から現行の計画で学校再編を進めたい。今の段階ではそのように考えております。これは、仮定の話となるんですが、新しい学校がもし出来たらとしたらということで聞いていただきたいんですけども、まず、新しい学校では基礎・基本の学力の定着を図った上で、次の2点を大切にしていきたいというふうに考えております。1点目はそれぞれの今の学校の良いところ、地域の宝、そうしたものをしっかり継承し、それらを生かした教育を行っていくということでございます。2点目は変化の激しい社会を生き抜いていくために子供たちに、未知なる状況に対応していく力、そうした力をこれからの教育では付けていかなきゃいけない。そのように思っています。具体的な中身なんですけども、まず1つ、モジュール学習を新しい学校でもやりたい、そのように思っている。土堂小学校の校長としてモジュール学習に取り組みまして、その有効性というのは、実感しているところです。モジュール学習というのは、15分程度の短い時間で行う学習で音読、計算、漢字などを繰り返して定着を図っていく学習です。新しい学校でもそのモジュール学習を行って、基礎・基本の学力をしっかりと育成をしていきたい、そのように思っています。

次に新しい授業のイメージについてお話しします。教育委員会として、大崎上島町にある叡智学園に行って、これからの時代に求められる新しい授業の姿を見てまいりました。これまでの説明会で、この叡智学園の話をさせていただいたところ、新しい学校は特別なエリート校を作るのかというふうに、誤解をされている方がいらっしゃるようですので、これは、はっきりと否定させていただきたいと思います。これから創ろうとしている学校は特別なエリート校ではございません。これまでの教育というのは、教師主導で、知識を教え込む、一斉学習になりがちであったというふうに私は考えています。しかし、これからの新しい教育は、子供たちが疑問に思うことや学びたいと思っていることを出発点とし、子供たちが仲間と互いのアイデアや考えを出し合って子供たちが主体となって学ぶ授業、すなわち、これを広島県では「学びの変革」と呼んでいるんですけども、この「学びの変革」が求められています。その「学びの変革」を先導しているのが叡智学園でございます。

「学びの変革」は、学習指導要領に基づいて、尾道だけではなく、県内全ての公立学校で目指しているものであります。その根拠の一つをお話したいと思うんですけども、昨年度、令和4年度から県教育委員会は、県内の小中学校の先生方、市町教育委員会の職員を対象に叡智学園の見学会を開催しています。昨年度は、年間20回以上300名を超える県内の先生方や、市町教育委員会の職員が叡智学園の見学会に参加しております。この見学会は、本年度も実施されておりました、県教育委員会に確認したところ、見学会の目的というのは、「学びの変革」に取り組む、その新しい学びを行っている叡智学園の生徒や先生方の姿を見て、県内の先生方に新しい授業のイメージを持って欲しい。そして、そのイメージをもとに、各市町の各学校の実態に応じて、アレンジしながら、「学びの変革」に取り組んでほしいという目的で実施しているものというふうに言われておりました。こうした状況を、私は前から知っておりましたので、それで、これまでの説明会で叡智学園の教育を、尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていきたい。そのように説明をさせていただきました。もう一度申しますけれども、新しい学校を特別のエリート校にしたいという訳ではありません。尾道市の全ての学校を新しい学びができる学校にしたいと考えています。これからは、叡智学園で行われている授業をもとに、新しい授業のイメージとして国語を例にお話したいと思います。物語文を学習する際、これまでは、先生が今日は登場人物が〇〇したときの気持ちを考えましょうと先生が学習課題を示して教師主導で子供は受け身の姿勢になりがちでした。これからの新しい授業イメージは、先生が学習課題を示すのではなく、子供たち自らが、自分の学習課題を決めて、主体的に学習を進めていく授業です。例えば、4、5人のグループで、まず、個別に文章を読みます。次に、みんなで考えたいことを学習課題として発表します。自分たちのグループの学習課題を子供たちが決めて読みを深めていく授業です。この授業は真の意味で、子供たちの主体性から生まれる学習となります。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思います。そして、多様な見方・考え方、感じ方を尊重できる感性を養うことにもつながると考えています。ここで大切なのは、そうしたグループがいくつもあるということです。なぜなら、他のグループの考えたことを聞いてみたいという、新たな学習意欲が生まれ、互いのグループで発表し合い、気付きを交流し合うことにより、子供たちの学びがより広がったり、関わったりして大きな学習効果が期待できると考えております。

次に、グローバルな学びということで、英語教育の充実を伝えたいと考えています。これからの子供たちにとって、英語力は必須です。小学校1年生から英語教育を充実させ、中学校3年生で日常の会話ができるように、そうしたレベルの教育を行いたいと思っております。そのためには、学校生活の中で英語を使って聞いたり話したりする場面を劇的に増やしていく必要があると思っております。例えば、全校朝会で校長先生に話の一部を英語で話し、子供たちに、今、英語で話したんだけど、どんなことを言ったかわかりましたか。っていう風に聞いてみてください。そして、その後、日本語でそういう内容だったんですよ。っていうことを教える。子供たちは、校内放送を行っています。給食委員会がお昼に給食の放送をしています。そうした〇〇委員会からの放送も、基本、英語で行います。小学校は学期に1日、中学校は学期に1週間程度、英語だけで生活する時間も意図的に作っていく。子供たちが困らないよう小学校1年生から学校生活に必要な英語を教えて、子供たちが英語を使って生活できるオンラインを使って海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光で来られた外国人の方にリアルに英語で交流を図っていく。こうした教育を実現するためには、先生方や子供たちが困らないように配慮していかなければなりません。英語の教員やALTの配置、英語の堪能な地域のボランティアの方など人材の確保をしっかりと考えていく必要があると思います。

次にローカルな学びということで、おのみち学についてお話ししたいと思います。皆様の地域には誇るべき歴史・文化・産業があり、偉大な先人がおられます。これらを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間でおのみち学として、探求的な学習を行っていきたいと思います。探求的な学習といいますのは、先生が教えるのではなく子供たちが、興味・関心を持ったことを学習の出発点として子供たちが学びたいことを学びたい方法でとことん調べ、それをまとめて発表する。そうした一連の学習を指しておりまして、未知なる環境への適応力を身につけるための新しい教育方法の一つであります。おのみち学の取組には、地域の皆様や保護者の皆様の協力が必要です。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史・文化・産業などに詳しい地域・保護者の皆様のゲストティーチャーとして積極的にお招きし、おのみち学の充実につなげてまいりたいと思います。

おのみち学のキーワードは 地域への貢献でございます。そのため学習のゴールとして、小学校では伝統文化祭り、中学校ではまちづくり政策発表会を計画しております。中学生の新鮮かつ独創的なアイデアでもしかすると新たな尾道名物や 尾道を活性化する新たな産業が生ま

	<p>れるかもしれない。最後に先生方への配慮についてです。先生方の意識が統合に向いてしまい、在校生の教育が疎かになってはなりません。教育委員会として、今学校に通って頑張っているその在校生への配慮をしっかりと行っていきたいと思います。学年の途中から新しい学校に編入する在校生への配慮として合同学習や合同行事など新しい学校にスムーズに適応できるよう、体系的な学習を実施していきたいと思います。また子供たちや保護者が安心できる教職員の人事、先生方のスムーズに新しい学校で教育活動ができるようにするための研修をできるだけ、負担をかけない方法で行っていきたいと思います。ただ、今お話しした教育の中身というのは、開校して、すぐにできるということはありません。できるものもあるでしょうし、徐々に徐々に積み上げていって、今私がお話ししたような姿になっていくものもあると思います。そういうふうな学校を作りたいと思いますが、それは教育委員会だけでは無理です。地域や保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。そういう意味で私たちと、もし新しい学校を創ることになったら、今のような学校を皆さんとともに創っていきたいと思っております。以上で終わります。</p>
<p>教育委員会事務局</p>	<p>(教育委員会事務局自己紹介)</p>
<p>教育委員会事務局(司会)</p>	<p>まず初めに資料の確認をさせていただきます。まず、本日のレジメが1枚目になります。次に資料1が前面に映されたスライド資料になります。ご確認ください。本日はこの後、教育委員会事務局からの説明を約20分行い、その後、質疑応答を行いたいと考えております。本日の終了時刻は20時を予定しておりますので、よろしく願いいたします。それでは、説明を始めます。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 説明</p> <p>それでは、6月3日に行いました、土堂小学校区における第2回地域説明会で、多数のご意見やご質問をいただきました。</p> <p>本日の説明会は、皆様からいただきました、そうしたご意見やご質問への回答を中心に、学校再編について、改めてご説明申し上げ、その後、さらにご質問ご意見をいただきたいと考えております。20分程度のご説明となりますので、まずは、お聞きいただきたいと考えています。</p>
<p>石川庶務課管理</p>	<p>まずは、6月3日に開催しました土堂地区説明会においていただき</p>

<p>係長</p>	<p>ました意見について振り返ります。</p> <p>○土堂小学校は校舎を耐震化して存続させるべきである。</p> <p>○築80年を経過しても学校として使用している施設もある。</p> <p>○土砂災害防止法の特別警戒区域内に施設の建設はできるはず、また市内の多く学校が区域内に該当する。といった意見が主な意見でありました。</p> <p>まずは、校舎等の施設に関するご意見について、教育委員会の見解を改めてご説明します。</p> <p>まずは、土堂小学校は校舎を耐震化して存続させるべきである。という意見がありましたので、教育委員会において、平成28～平成31年に行った土堂小学校敷地での耐震化の検討についてお伝えします。</p> <p>こちらは、耐震化の検討結果です。ご覧のように、耐震補強のため、外部への鉄骨フレームの設置が必要です。</p> <p>土堂小学校の耐震化には、外壁へ鉄骨フレームを設置することに加え、各フロアの壁を一度取り外し、新たに内壁を設置するという作業が必要です。また、部屋内部への鉄骨フレームの設置も必要で、教室の利便性も下がります。</p> <p>施工にあたりましては、4t車がグラウンドへ進入するためには進入用スロープが必要です。校舎の柱が隣接道路付近へあるため、補強を行う際、通行止めが必要となります。事業費の概要ですが、工事としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事 ・長寿命化改修（コンクリート中性化対策） ・大規模改修（床・壁・天井など劣化改修） ・土砂災害防止法に基づく特別警戒区域の対策工事（学校敷地内のみ） ・進入用スロープの設置が必要と考えています。 <p>内訳にあります、②長寿命化改修（コンクリート中性化対策）、③大規模改修は今後、継続的に校舎を使用するためには、老朽化対策が必要と考えているものです。</p> <p>その結果、安全確保が図られ、はじめて継続的に子供が学べる環境が提供できると考え、試算を行っています。</p> <p>各工事の概要ですが、まずは、耐震補強工事です。</p> <p>この表は、土堂小学校の建物ごとにI S値の一覧です。</p> <p>この工事は、現在のI S値という地震に対する耐震性を示す数値を0.75以上とし、建物の地震に対する耐震性を上げるものです。通常I S値が0.6以上で耐震性のある建物とされ、学校施設については安</p>
-----------	---

全性を高めるため尾道市では0.75以上となるよう耐震補強を行っています。

外部へ鉄骨フレームを設置することが多いですが、土堂小学校においては、内部の補強も併せて行うことを冒頭の説明でお話ししました。事業費については、平成30年3月～平成31年3月にかけて設計業務を委託した会社により算定した費用に、近年の物価上昇、4t車での工事施工により割増を考慮し、7.6億円と見込んでいます。

次に、②長寿命化改修、③大規模改修についてです。

土堂小学校においては、“コンクリート強度”について、左の水色の表に示しております。

コンクリート強度は、 13.5 N/m^2 という数値を基準とし、この数値を下回る箇所があれば、低強度コンクリートと呼ばれる強度が弱い箇所がある建物とみなされます。

土堂小学校の場合、表で黄色、下線で示した箇所に、12.1、12.9という低強度な部分がみられます。ちなみに、前回の説明会で事例として意見のあった“Bank”においては、この数値が、 $19.2 \sim 27.4 \text{ N/m}^2$ と低強度な部分がみられません。

また、“コンクリート中性化”について、右のオレンジ色の表に示しております。建物の築年数及び調査時のコンクリートの現状などにより基準値があり、測定した中性化の深さが、基準値を超えている場合、中性化の進行が速いと判断するものです。

土堂小学校の場合、5つの建物のうち、黄色で示した3つの建物において、コンクリートの中性化の深さが基準値を超えています。昭和12年建築の校舎で言いますと、基準値33.5mmに対し、中性化の深さが51.4mmまで進行しており、コンクリート中性化が進んでいることが分かります。

それに対し、“Bank”は、基準値が25.3mmに対し、中性化の深さが1.7mmまでしか進行しておらず、コンクリート中性化の進行度が大変遅いことが分かります。よって、土堂小学校においては、コンクリートの中性化が進んでおり、このことにより内部の鉄筋のさびによる腐食が危惧される状況です。このように、低強度コンクリートが存在し、コンクリートの中性化が進んでいる状況の建物について、子供たちの安全確保を行ったうえで、継続使用を行うためには、長寿命化改修（コンクリートの中性化対策）を行う必要があると考えています。

また、築80年を経過した建物ですので、床・壁・天井等の経年劣化がみられますが、このことについては、長寿命化改修を行う段階で、建物のコンクリートをむき出しにした状況から、中性化対策を行うため、

床・壁・天井については、貼替を行うこととなり、リニューアル工事が完了する流れです。

事業費については、近年の工事实績等を踏まえ、概ね13.3億円と試算しております。

これは、土堂小学校校舎の粗悪コンクリートの写真です。部分的に、写真のような状況の悪いコンクリートも存在しています。通常は、右のように、骨材（石）の間に、モルタルが隙間なく充填されていますが、土堂小学校では、骨材（石）の間に、モルタルがなく骨材が独立している「ジャンカ」と呼ばれる粗悪なコンクリートがみられます。

最後に、④土砂災害防止法に基づく特別警戒区域の対策工事・進入用スロープ設置についてです。まず、安全確保のため、敷地内の特別警戒区域の解消のため対策工事を行うこととしています。図に示しますように、敷地内の3カ所の特別警戒区域について、対策を行います。ただし、特別警戒区域が解消されても、警戒区域内に該当したままの状況となります。事業費については、平成30年1月～平成30年3月における、設計業委託での算出結果に、近年の物価上昇などを考慮し、概ね0.9億円（9,000万円）と試算しております。なお、当地域の土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定は、小学校周辺について、平成29年12月21日に公表、令和元年6月27日に区域指定となっており、区域指定により、区域内に該当した施設について、新たに施設整備を行う際には、子供たちの安全確保のため、特別警戒区域の対策工事を行う考えによるものです。ただし、後背地の特別警戒区域については、民地であることなどから、実施困難と考えており、これらの対策費は、事業費に含んでいません。

次に、進入用スロープ設置についてです。土堂小学校敷地までの進入路が狭小なことから、4t車が進入できるよう、進入用スロープの設置工事が必要となります。事業費については、近年の工事实績等を踏まえ、概ね0.5億円（5,000万円）の事業と試算しており、先程の土砂災害防止法に基づく特別警戒区域の対策工事とあわせ、④全体で1.4億円と試算しております。よって、事業費としては、耐震補強工事に7.6億円、長寿命化改修（コンクリート中性化対策）、大規模改修（床・壁・天井など劣化改修）に概ね13.3億円、土砂災害防止法に基づく特別警戒区域の対策工事、進入用スロープ設置に概ね1.4億円を見込んでおり、総事業費を概ね22億円、工期3年を見込んでいます。

なお、後背地の特別警戒区域の解消に向けた対策費は含んでいません。

こちらが耐震化工事を行った際のスケジュールです。耐震補強、長寿命化改修を行った場合、令和9年度に工事が完了します。結果、令和10年度から元の校舎に通学することとなり、教育委員会の提示した再編案と比較して、現在の千光寺公園グラウンドにある仮校舎での生活が3年長くなるというデメリットも生じます。

ここまで、土堂小学校の耐震補強の検討結果をお伝えしました。検討において、土堂小学校を存続した場合の事業費を算出しています。土堂小学校を存続した場合、久保小学校+長江小学校の統合小学校、土堂小学校、山波小学校の3つの小学校、その後は、久保中学校、長江中学校の統合中学校という形になります。

ご覧のとおり、土堂小学校を耐震補強および改修にて存続した場合、統合小学校については、教育委員会提案と同じですので、31億円程度。土堂小学校については、耐震補強に改修を含めて、22億円程度。統合中学校については、33億円程度、計86億円程度の事業費が想定され、下段の教育委員会提案の学校再編案と比較し、事業費の増が見込まれます。

次に、築80年を経過しても学校として使用している施設もある。という意見についてです。

質疑応答の際、築80年を経過しても、継続して使用できるのではないかという意見をいただいております。こちらのように、教育委員会としましては、検討にあたっての考え方において、校舎の耐久性を考慮しておりますが、この考え方についてお伝えします。

こちらは、文部科学省の示す“学校施設長寿命化に係る方針”です。左の図にありますとおり従来の考え方においては、築40年を経過した頃から改築を行う考え方となっていました。これでは、高度成長期に建築した建物を一斉に建て替える必要が生じることから、右の図にありますのとおり、築40年を経過した時点で“長寿命化改修”を行い、現在の校舎を築80年まで使用し、改築（建て替え）を行う文部科学省の方針を参考にして、検討を進めてまいりました。すなわち、現在の学校施設の管理としては築40～50年を経過した時点で、その建物を改築するのか長寿命化改修を行うのか決定し、築80年まで建物の寿命を延長するという考えであることをお伝えします。

よって、築80年で建物が使用できなくなるわけではありません。先程お話ししましたが、土堂小学校の耐震化は可能です。しかし、耐震補強を行っても、建物の寿命が延びるわけではない。よって、近い将来建て替えが必要な状況であり、また、耐震補強を行ったのみでは、老朽化に伴う安全確保ができません。

今後、20～30年土堂小学校を存続させると考えるなら、築80年を経過しているため、施設の老朽化による事故のリスクも高まることから、子供たちの安全確保を目指し、継続使用を行うのではなく、建替え等を行うべきと考えたものです。

土砂災害防止法の特別警戒区域内に施設の建設はできるはず、また市内の多く学校が区域内に該当する。また、市内の多く学校が区域内に該当する。すなわち、土堂小学校が危ないというなら、他の学校はどうするのか？という意見についてです。

尾道市内では、平成21年度以降、警戒区域等の指定が行われています。その結果、多くの学校が区域内に該当したものであり、区域内に学校施設（校舎などの建物）を整備してきたわけではありません。区域内に該当した学校は、避難確保計画を作成、警報発令時、危険性のある教室を使用しないなど、安全確保のための対策を行っています。建物に対する規制等は生じますが、特別警戒区域内に建物の建築は可能です。しかし、今後、新たに整備する学校は、子供たちの安全確保のため、災害等による危険の少ないより安全な土地へ学校施設を整備する考えを持っているものです。

こちらは、土堂小学校敷地と長江中学校敷地周辺の土砂災害警戒区域等の指定状況の図面です。土堂小学校の後背地の特別警戒区域は、指定範囲が大きく学校敷地への影響もあると考えています。再編後の学校施設の設置場所を検討するにあたり、どこが子供たちの安全確保にとって適切か、を考慮し、再編後の統合校の設置場所などの検討を行っています。

現在の提案に至った理由は、土堂小学校校舎の耐震化は可能、特別警戒区域内への建物の建築可能（建物の構造等へ規制等あり）、土堂小学校敷地への新校舎の建築可能ですが、土堂小学校校舎は、耐震補強に加え長寿命化改修が必要なこと、敷地周辺の警戒区域等の指定や校舎の老朽化による危険性を考えると、子供たちの安全確保のため、土堂小学校校舎の継続使用ではなく、新たな建物を検討し、また、土堂小学校敷地ではなく、より安全な土地で施設整備を行うことを検討することとなりました。

検討においては、今後の土堂小学校の児童減少に伴い、適正な学校規模の確保が必要なことから、子供たちにとって、よりよい教育環境の実現を目指し、土堂小学校単独での存続は行わず、統合校の設立が必要と判断し、教育委員会としては、“子供たちの安全確保を最優先に施設整備を行う“考えを第一にもち、この度、このような案を提案したものです。

三浦学校経営企画課長

それでは、久保・長江中学校区の学校再編案を提案した理由について、適正な学校規模の確保の観点から、改めて説明します。これまでの説明会でも触れておりますが、本市では、平成23年12月に策定した「尾道市立小・中学校再編計画」でも、子供たちにとってのよりよい教育環境を目指すため、複式学級を早期に解消し、1学年複数学級化を図ることにより、適正な学校規模を確保することを掲げ、学校再編を進めてきました。前回の土堂小学校区地域説明会で、ご質問をいただきましたが、「尾道市立小・中学校再編計画」は、尾道市立学校通学区域審議会が平成14年に答申しました「尾道市立小・中学校の適正配置および通学区域について」にある、学年の適正な学級数についての記載が根拠になっています。この答申では、学年の適正な学級数は複数学級であることが明記され、その理由として、学校教育法施行規則で小学校の標準学級数が12学級以上18学級以下と定められていること、審議会の議論で、本来一つの学年は、集団としての様々な体験ができることが望ましく、クラス替えや違うクラスとの合同授業等、幅広い活動ができることが理想と考えられたこと、市民アンケートでも、一つの学年は2学級を支持する回答が34.9%で、割合としては最も多いことを挙げています。

児童生徒が多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会を充実させていくには、適正な学校規模が必要です。複数学級化のメリットとして、クラス替えが可能になることから、人間関係の固定化につながらないこと、クラスごとに切磋琢磨ができること、教科担任制による専門的な指導が実施しやすくなること、複数の教員により、組織的な指導が可能になることから、多面的な児童理解を通じた児童の心の安定につながることで、中学校では、生徒が増えることにより、部活動の活性化につながることを挙げられます。

画面には、土堂小学校の児童数の今後の見込みを示しています。児童数は減少傾向にあり、全校児童は、統合予定の令和7年度は94人、新校舎完成予定の令和9年度は61人となる見込みであり、令和10年度の入学見込みは3人、また、低学年で複式学級が生じる見込みです。

これに対し、土堂小学校、久保小学校、長江小学校の統合からなる新しい小学校の、児童数の今後の見込みを示しています。新しい小学校の全校児童は、令和7年度は304人、令和9年度は247人となる見込みです。また、複式学級となることは解消され、概ね、複数学級化が図られる見込みとなります。このことにより、適正な学校規模が確保され、「児童が多様な考え方に触れる機会」や「学び合いの機会」を充実させていくことが可能になると考えています。

<p>住民 1</p>	<p>子供たちの安全性の確保の観点、そして、子供たちのよりよい教育環境の整備の観点から、保護者・地域・学校・教育委員会で力を合わせ、未来を担う子供たちのため、新しい学校を創ってまいりましょう。</p> <p>以上で教育委員会からの説明は終わります。</p> <p>4 質疑応答</p> <p>先程、説明部分での質問です。耐震化、いくらの震度を目標に、それに耐えられるように検討していますか。それから、なぜ相見積を取らないのですか。1社だけの検討するのですか。もう一つ、登るのに4tでなくて、2tで十分だと考えます。それから長期化・改修化今さら問題点を並べていますが、校長経験者もおられますが、校長の時は一切考えなかったのでしょうか。以上質問にお答えください。</p>
<p>石川庶務課管理 係長</p>	<p>一つ一つお答えさせていただきます。震度いくらに耐えられるかということですが、震度7で、倒壊の可能性がなくなるというのが、一つの指針として整備しています。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>続きまして、なぜ相見積もりを取らなかったのかという質問でございますが、耐震につきましては、もともとの設計がございまして、そちらを基準にご説明いたしまして、それ以外については、我々が精査して試算した結果をお示したものです。ですから、業者の見積もりを取ったものではございません。</p>
<p>石川庶務課管理 係長</p>	<p>あと2t車でも、工事は出来るだろうとの質問ですが、費用を我々もなるべく抑えたいということがあります。スロープを造って4t車で工事をする場合と2t車でやっていく場合で工事の施工性、効率がかなり変わってまいります。そういうことで、今4t車の方でやるということで費用を抑えた方法を検討させていただきました。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>私が校長だった時の長寿命化・耐震化ということですが、教育委員会の方から、居ながら施工ということで子供達がこの校舎に居ながら工事をするにはどうしたらいいかといったことそういう説明を受けた記憶がございします。その際ですね、外にフレームを付けるだけでは不十分なので教室と教室の間の壁ですね。これを一旦取り壊して新しい壁を作り直さなければならないという説明があったというふうに記憶しております。そうなった時に、子供たちを教室からどこに移動してもらうのかという、そういう検討も当時あったと思います。で、その際に土堂公民館の施設に黒板と教室の仕様になっているものがございしますので、いくらか施設を使いながら、子供たちを移してその子供達がいないうちに教室の壁を新たに作り直すといったような話があったというふう</p>

	<p>に思います。そういった話があったんですが、それだけではやっぱりですね、工事がかなり長くなるということで、グラウンドに仮設のプレハブの教室を作るようなことはどうなのかと話もありましたけども、体育ができなくなる問題とか、これまでと同じような教育活動がなかなかしづらくなるという話が当時あった。そういうようなことを記憶しております。以上です。</p>
住民 1	<p>震度 7 の根拠はどこにあるのですか。ここ近場で震度 7 があったのはどこですか。どれくらいの学校の被害を受けたのか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>先程の震度 7 ですが、震度 7 を目指し整備するということは、国の方針でございまして、この地域で震度 7 が起こらないから、もう少し低くてもいいだろうという発想は行っておりません。当然文部科学省の方が全国統一的に I S 値と呼ばれるものを一定の数値をキープしなさいという指針ができています。耐震化できているところとできていないところがあるデータを取りながら、全国で 100% になることを目指しております。そういうことで、国の考え方に基づいて全国統一的に行っております。</p> <p>震度 7 での被害状況については、資料が手元ございません。</p>
住民 1	<p>尾道の小学校で、震度 7 で問題にある学校はどこですか。土堂小学校だけを問題にするのか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>震度 7 で問題のある学校は、耐震化ができていない学校になる。現在の尾道市内の学校は、耐震化率は 100% になっている。その理由は、当然、久保・長江・土堂小学校を仮校舎に移した結果、耐震性のある建物ということで 100% になっている。そういう意味で、現在の学んでいる学校では耐震化していることになっている。</p>
住民 1	<p>向島の三幸小学校はどういうことになっていますか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>三幸小学校も当然、耐震化しております。</p>
住民 1	<p>何年も動いていないじゃないですか。</p>
石川庶務課管理	<p>何年も動いていないというのは？</p>

<p>係長 末国庶務課長</p>	<p>三幸小学校につきましては、耐震化ができていないから、動いてください統合してくださいということではなく、新しい向島中央小学校が完成した時期に統合を提案しましたが。地域の皆さんの反対ということで、三幸小学校の方は話が進んでいないということです。統廃合については、耐震化を問題としたものではありません。</p>
<p>住民 1</p>	<p>意味が分からないので、もう一回お願いします。</p>
<p>末国庶務課長</p>	<p>三幸小学校の統廃合というのは、この度の土堂小学校と意味合いが違います。三幸小学校はもともと耐震性がある校舎になります。</p>
<p>住民 1</p>	<p>質問は他、多々あるんですが、他の方にも聞いていただいて、今回はこれで終わって、また手を挙げます。</p>
<p>住民 2</p>	<p>2問あるんですけれども。まず最初なんですけど、複数化のメリットが出てきた。文部科学省の統廃合の手引きには、複数学級と小規模校のメリットとデメリットどちらもありますよね。よく検討して、地域ともすり合わせをして決めましょうねとなっていますよね。今回その複数学級のメリットだけが出されているんですけれども、たったこれだけなのか複数学級にしたら切磋琢磨して、人間関係が固定しないで部活が多様性が出てくる。それだけのことでしているわけではないと思いますので、まずそのメリットとデメリットをどう整理して、だからこう判断したというような説明をしていただきたい。その前提としては、今は第4次産業革命と言われるような情報革命が進行中です。その中で学校教育に対する要求も変わってきていると思います。その中で未来のあるべき学校教育、もちろん子供たちの安全が一番大切だとも思いますけれども、それも踏まえて、今後も考えて、今後メリットとデメリットをどう整理して、こういう結論を出したんだということを簡潔に説明していただきたいなと思います。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>はい。今先程スライドの方で複数学級化のメリットについては説明させていただきました。小規模校のメリットとしては先生たちとしっかり触れ合うことができるとか、一人一人の様子をしっかりと見ることができるといったようなメリットがあることかと思えます。当然我々も勉強して思いますけれども、先程申し上げましたように、やはり複数学級が見込まれる中で、人間関係の固定化などのデメリットがある中</p>

<p>住民 2</p>	<p>で国も県も一定規模の確保を行う方向に進んでおります。その中で、やはり人数が少ないというよりも、一定の規模子供たちがいて、一定の規模の中で学んでいくそっちの方が学校としての授業としてのメリットがある、そのように考えて今回のご提案をしております。</p> <p>普通考えたら、同じ一斉授業で同じことを教えるんだったら、人数が多い方が効率がいいっていうのは分かります。ただその個別の子供たちの興味とか特性とかに合わせて、教育をするんだったら少人数の方が絶対いいと思うんですけど、それを大人数の方がいいというのは、全然理解できないんですけど。それは文科省がそう言ってるからだけなんじゃないですか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>確かに一斉授業で40人が40人前を向いて、先生の言う事聞く授業が、効率がいいかといえば効率がいいと言えるかも知れませんが、我々はそういった意味での効率化は求めておりません。少人数であれば先生が一人一人に寄り添って問題を教えたりできるかも知れません。ただ先程から説明をしておりますのは、子供たちは少なければ1つの課題、1つのなぜだろうとの課題に対して、意見が3人いれば3人しか出ないということです。これが5人であり、10人であり、大規模であれば様々な意見が出ます。話し合い自らそういった授業これから展開していきたい。それがスタンダードになってまいりますので、一定の規模は、やはり必要だというふうに考えています。</p>
<p>住民 2</p>	<p>大体、一般の企業であれば、課の人数は8人ぐらいです。35人も人を集めてそこで議論して何かを作り出そうというのは、はなから無理です。35人でどうやって深い議論するんですか。それだったら1クラスもっと減らすとか。先程教育長が言われた叡智学園だって1クラス20人なんじゃないですか。ここであまり引っ張っても納得のいく答えは得られないと思うんですけど。さっき言ったようにメリット・デメリットをちゃんと整理して提示して欲しいと思います。やってるんだったらですよ。やってないんだったらこれから作って提示してください。</p> <p>第2問、皆さんは、人口推計ってのは、一番見通しが外れないっていうかそういうもんだということは良くご存じだと思います。この久保・長江中学校区ですけれども、この尾道市の他の小中学校は今後どうなるんですか。改正教育基準法では1クラス35人に段階的にしている途中です。複数学級がいいということだったですね。70人を下回ると</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>統廃合の対象になるということですよ。人口推計というのは確かに出てくるものですから、これから尾道の小中学校がいつ統廃合の対象になってくるのが分かるはずですよ。統廃合が正しいとしてですよ、1クラス35人複数学級これが正しいとして、どういう未来を描いているんですか。</p> <p>1点目のメリット・デメリットのお話についてお答えしていきたいと思います。小規模校っていうのも私は否定する気は全くありません。これは何度か説明会でお話ししたんですけど、私が20代の後半の頃複式学級がある小規模校に勤務しておりました。その中で感じたのは指導ができる、また1人の子供たち1人の児童生徒が自分の思いや考えを発言できる機会が多いということもメリットだと思います。そういうメリットはあるかもしれません。それから様々な活動で一人一人の子供たちがリーダーを務める機会も増えてまいります。そうしたメリットが小規模校にはあるのではないかと考えております。一方、デメリットもあるというふうに考えております。例えば、学習の面では、先程から話が出ていますが、多様なものの見方や考え方、感じ方また表現方法、そういったものに触れる機会が少なくなると思います。ですので、自分の考えを広げたり、深めたりする。そうしたことが難しいといった部分が出てくると思います。また適度に競い合い、切磋琢磨する環境というのが作りにくくなる。学びや成長への意欲・向上心を引き出しにくい。そういったデメリットもあるのではないかとと思います。また、その教科の得意なお子さん、発言力のあるお子さんの考えにクラス全体の考えが引っ張られてしまうというようなこともデメリットとして指摘されているところです。それから中学校の部活動で申しますと、やはりメンバーが揃いにくい、部活動の種類が限定されてしまうといったこともあろうかと思えます。それから授業で、体育の球技とか音楽の合奏合唱など、こういった集団による学習にも支障が出てくるものと思えます。そのように思います。これが学習における小規模校のデメリットであります。</p> <p>次に人間性を育てるというところでのデメリットで私が思うのが、社会性とか規範意識、コミュニケーション能力を身に付けることが難しくなる。このコミュニケーション能力も私何回かお話しさせていただいたんですけども、企業が求めている能力では、コミュニケーション能力はいつも上位に来ています。このコミュニケーション能力は単に話したり、聞いたりするだけではないと思います。各年代の方、いろんな価値観を持っていらっしゃる方の思いを受け止め、そして適切</p>
--------------	---

にやり取りができる、そういったことをコミュニケーション能力というふうに考えた時にですね、やはり4、5人とか10人未満のクラスでコミュニケーション能力の基礎が培われるのが小学校時代ですけども、そういったところと言うとやや人数が少ないとそういうコミュニケーション能力、多様な考え方・価値観そういったものに触れる機会が少なくなってしまうのは心配なところではないかなと思っております。これは私の小規模校で勤務した時の思いが重なるんですけども、先生の指導が行き届きやすいという反面、子供達は先生への依存が強くなるんです。「先生これしていいですか。」「いいよ。」人数が多いとやりくりするわけにはいきませんから自分で考えて判断して動かなければ生活はできません。ですが小規模校で人数が少ないとついつい「先生これしていいですか。」「どうですか。」というふうに聞いてしまいます。そういうところと言うと、主体性が育ちにくくなるということはあるのではないかというふうに思います。また児童生徒同士の人間関係が固定化されやすいという面やそれから学級内の男女の比率が偏りが生じることがあります。例えば6人のクラスで女の子が1人で男の子が5人、またその逆そういったことも保護者の方から見るとちょっと心配なんじゃないかということも思います。それから班分けやグループ分け、学級編成のバリエーションが少ないということでやや制約が生じてしまうということ。そして最後にこれ私実体験があるんですが、小さい小学校の小規模校の6年生の担任をしまして、卒業しました。中学校に行きました。中学校は4つの小学校が一緒になる中学校かなり人数の多い中学校でした。小さい学校から進学したわけですけども、ある時4月のいつだったか覚えていませんけど、お母さんにばったり会いました。その時に「何々君元気で中学校に行ってらっしゃいますか。」というふうにお母さんに声をかけました。するとお母さんの表情が曇ってしまいました、「どうされたんですか。」「小さい学校から大きい学校に気後れして今休んでいるんです。」というようなお話をいただきました。でその後、私もその子にメッセージを送ったりして様子を見てたんですけど、3ヶ月ぐらいして再びその子がその期間きっとエネルギーを貯めたんだと思います。3ヶ月ぐらいしてから「中学校に通えるようになったよ。」という話を聞かせてもらいました。私は元担任としてはほっとしたわけです。そういったことがございまして、進学の際に大きな学校に行くと困難をきたす場合がある。そういったことを考えまして、一定の規模の教育環境というのが望ましいのかなというふうに思っているところです。1点目については、以上です。

<p>住民 2</p>	<p>あの、教育長の考えを聞きたいわけではなくて、この統廃合を決める時に議論しているでしょ。その資料はあるんでしょうね。それを見せて欲しいんです。手引きにそう書いていますよね。メリット・デメリットを比較して住民と合意を取ってやりなさいと書いてありますよね。今、手続きが進んでいるでしょうから、統廃合で話を進めていらっしゃるんですけど、メリット・デメリットを1回議論して、資料どっかにあるんじゃないですか。議事録とか出てないんですよね。市議会の資料とかあんまりそんな話は出ていないんで、わかんないんですよ。もちろん議論されていると思うんでそれを見せてくださいと言っているだけです。</p> <p>他の方も質問はあると思うので、あまり時間を使うのは本意でないんで、出してください。</p> <p>それと将来的には尾道市の小中学校の統廃合問題。少子化は、異次元の少子化対策をやってもですね、結果10年後20年後になるのかですから20年経つにどうなるのかなっていうのをもし、やってるんだったら出して欲しい、やっていないんだったら、早急に考えないと泥縄式に毎回毎回どうしようどうしようって、やるんじゃないですか。ということで、質問は終わります。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>メリット・デメリット、私たちも、再編計画も出していますし、整理はしておりますので、また、次回お示し出来たらなと思っております。</p> <p>それから将来の学校像というご質問だったと思いますけれども、今6年生は1000人おります。令和11年度に、1年生で入学する予定のお子さんは591人です。ですから、10年間の間に400人ぐらい減っているということですから、今後の学校のあり方というのは考えていかなければならないところです。今の状況を考えると平成23年の再編計画に基づいてやっていますが、今の状況を考えていくとやはり見直しを図っていかなければならない時期に差し掛かっています。ですから、ここ何年かの出生数を見させていただきながら、教育委員会として市内全体の学校のあり方を考えていかなければいけないという認識を持っております。その際に小学校中学校を単独で残した方がいい学校や地域性もあると思いますですけども、やはり人数が少なくなっている学校が多いですから、そこは、小学校と中学校を引付けた方がいいのか、また校区の再編をした方がいいのか、様々なことをシミュレーションさせていただいて市内全体の在り方を考えていこうと思っております。ですけども、この今再編の案を出させていただける地域は、耐震化がないということで仮校舎に移っていただいております、そ</p>

<p>住民3</p>	<p>ういった状況を一刻も早く改善させていただきたいという、やはり児童数の減少は急激に進んでいる地域でありますので、今回ご提案をさせていただいているところでございます。</p> <p>すみません。耐震化検討結果、スケジュールのところなんですけども、これ丸4年かかるような感じに書いてありますよね。これは、どなたが計画を立てられたのか、実際、耐震・老朽化対策で、こんなに日にちがかかるのか。なんとなくですけど、統合案の日にちに面合わせした様にしか思えないんですが。それと私3回目なのですが、2回目の時にも、日比崎校区であつたりとかそういうようなところとの統廃合、先程の方も言われたと思うんですけども、全体的な統廃合を考えて、児童数が減っていくということは、明白に分かっている状態の中で、新しい建物を建てるのが正解なのか、古いものを再利用して、その人間の統廃合を考えながしていくのが正解なのか、そういう検討はされたんでしょうか。そこら辺のなんとなく、前回出た質問に対して、こちら側の方がいろいろ耐震はできますよ、土砂災害の問題も一部しかかっていませんよ、80年問題のことはこういう学校はありますよ。と言ったことに対して、なんとなくですけども、回答を持ってきた。というふうにしか思えないのですが。そもそも現状、千光寺でやられている児童をどのように早く返してあげよう。とかそういうふうな考えがないのかなというふうにしか、3回参加させてもらって、私には、そうにしか思えないんですけども、今の2点、まず、スケジュール検討はどなたがされたのか。そこは明確にしないといけないし、どういうやり方なのか、いろいろ4年間もあつたら、かなりの高層ビルが建ってしまうのかという気がしないでもない。そこら辺どうなんでしょうか。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>スケジュール検討についてのご質問をいただいたんですけども、こちらでお示しさせていただいているスケジュールは、単純に工事の期間だけではありません。当然工事に行うにあたっての予算を取ったり、入札をしたり、あとそれから議会の承認をいただいたりする期間も見込む必要があるためです。</p>
<p>住民3</p>	<p>それは、スピーディーにやるべきことですよね。子供さん達の安全ということなんですから。並行してできることじゃないですか。一般企業は、そんなもん並行してやるんですよ。言い訳をしたらいかんよ。何処が、検討したのかと言ってるのよ。</p>

末國庶務課長	スケジュールの検討については、その他の工事は、こちら側になります。
住民3	あくまでもそちら側で。実際の工事業者とか、そういうところではないということですよ。
末國庶務課長	ええ。
住民3	費用の問題にしても、図面のを見たということいらっしゃると聞いてます。これ 半年以上かかっていますよ。実施設計のところ。
末國庶務課長	図面のことでございますが、平成29年頃に耐震化の設計をこちらの方は、業者に委託して設計いただいております。それなので成果品として出てきたものは皆さんにお示ししております。それ以外の部分についてはですね、実際にはまだ、設計会社の方に、お願いして設計しているわけではございませんので、私どもの建築担当の者が、今までの工事事例等を参考しながら、試算しております。これは、今建物の全体の工事費を64億と試算していますが、これも同様でございます。設計を行っているものではなくて、私どもで試算させていただいて、これくらいということでお示したものです。
住民3	じゃあ、工期はデタラメということですかね。
末國庶務課長	私どもは、これくらいの期間が必要だというふうに考えている。最低限の期間しかとっていないことではなくて、余裕を持った期間です。
住民3	精一杯、子供ためにやろうという計画では、無いということですよ。
末國庶務課長	必要な期間を見込んでいるということです。
住民3	まあ、変わります。
住民4	ご説明ありがとうございました。西土堂在住の〇〇と申します。スライドの15番、非常に良い案なのかなと拝見しました。費用はかかるにしてもですね。一つは、教育の選択肢を残すことは、重要なことだと思っていて、先程、大人数教育と少人数教育の議論がありましたが、大人数教

	<p>育がいいという人もいれば少人数教育がいいという人もいる、小学校から、1年生から英語を教えて欲しい人もいれば、そうでない人もいる。そういうことで、尾道市内に教育の選択肢を少し残していただければ、ありがたいなと思います。もう一つは、児童の安心ですね。耐震ももちろんそうなんですけど、通学に1時間くらいかかってしまう。それを考えて、例えば、交通事故に遭う確率とか犯罪に遭う確率は、格段に上がるわけです。ですので、いつ起こるわからない地震に対して、対策はもちろん必要なんですけども、是非ですね。毎日の通学、これに対する安全っていうのを確保していただければというふうに考えています。これは意見です。もう一つ質問なんですけど、街づくりの観点から考えていただきたいのですが、仮に統廃合を進めたとして、この土堂小学校の校舎はどうなるのか。それから土堂地区がこれからどうなっていくのか。っていうのをどういうふうにお考えでしょうか。</p>
<p>川齋教育総務部長</p>	<p>まず、この現土堂の校舎がどうなるか、ということですが、今決まっていることは、ここは耐震性がないですから、人の立ち入りを禁止しているということだけが、今、現状の中で決まっていることです。で、今後この土地をどう有効かっていうのをしていくか、この建物をどう街づくりのために生かしていったということはしっかりと地元の皆様、そして我々教育委員会ではなく市全体で考えていく必要があると考えています。</p>
<p>住民4</p>	<p>ありがとうございます。何に使うにしても、耐震化は必要だということによろしいですか。</p>
<p>川齋教育総務部長</p>	<p>耐震化するか否かというところも含めてですね、しっかり考えていかなきゃいけないと思います。我々教育委員会としては、ここを学校として利用することはやはり子供たちが長くいる場所ですから、どうなのか、より安全な場所として長江中学校の場所を選ばせていただきました。ただそれ以外にこの場所をどう利用していくかっていうのは、今の段階では白紙です。ですから、やはり、街づくりのために、ここだけではなくて、旧久保小学校、統合案が実現すれば令和9年度には長江中学校の跡地、こういったそれぞれのまとまった土地、これはやはり地域の皆様のご意見をしっかり聞いていく必要があると思っています。</p>
<p>住民4</p>	<p>ありがとうございます。土堂地区から、小学校が無くなったら、土堂地区はどうなるかと思いませんか。</p>

川鱒教育総務部長	<p>やはり、土堂地区から学校が無くなるということは、この土堂の皆様にとって非常に承服しがたいというお気持ちは、こういう説明会を通して、いろんな場で理解しているつもりです。ただやはり、我々教育委員会としては、子供が学ぶべきそのより良い教育環境・学ばせる場として、どこが一番妥当で、どういう形態が一番妥当なのかということで、長い間かかってしまいましたけれども、こういったご提案を差し上げているという状況です。</p>
住民4	<p>ありがとうございます。空き家の問題もありますので、教育委員会だけでなく、尾道市全体で街づくりについて、ぜひ考えていただければ、ありがたいと思っています。</p>
住民5	<p>こんばんは。お時間を作っていただきありがとうございます。今日は途中だったので、全部の説明は見れてはいないんですけど、やはり7・8年ぐらい前からずっと、教育委員会さんの説明会に参加させていただいてるんですけど、どうしても一方的に見えるですよ。説明会を開いておけば、住民の声を聞いているというふうな、そういうふうな体でやっているようにしか見えなくて、毎回意見をちゃんと真摯に聞いていただけているというふうな感覚が、多分おそらくここに来ている方、皆さん、同じ気持ちだと思いますけど、全く伝わってないと思うんですね。もう結果は、決まっています4年前に佐藤教育長が白紙だった時言われた時も、だいたいの方向は決まってるまま白紙にされたんじゃないかなってというのは、すごく今回の説明会でも、前回の説明会でも全く変わってないじゃないですか。中学校が付け加わっただけで何も変わっていないので、もうちょっと住民や地域の皆さん保護者の皆さんの説明をちゃんと聞いていただきたいと思います。その上で議論をしていただきたいと思うんですけど。その上で、統合されたいということばかりを言われているんですけど、なぜ統合かっていうのは、先程言われた理由が、統合の理由なんですかね。少人数になるとか耐震化の問題ですとか、一番の理由はなんなんですかね。先程もスライドで、耐震の話も費用の面と工期の面を比べられてましたけれど、統合とその耐震の違いみたいな形で説明されていましたが、この14番、先程の方も言われてましたけれど、あの土堂小学校を千光寺公園に上げるっていうのも、皆さん反対されてましたけれど、議会を通して無理やり決められましたよね。まあ、それは本当に僕個人としては全くその希望しなかったんですけど、常に、説明会でも、それは止めていただきたいと</p>

<p>川鯨教育総務部長</p>	<p> いうので、通学路の面でも危険だつてことで言つてたんですけれども、多くの方が反対していたにかからず移転しましたよね。その時に、なんども毎回同じこと聞きますけど、上げた時に、その耐震化工事をすれば、この4年かかるといふのも、早まっていたはずですよ、先程の説明で、耐震が長くかかるからこっちの方がいいつていふ話ですよ。短く新設でかかる方がいいつて説明されているんですよ。違います。比べられているのは、そういうことですよ。お願いします。 </p> <p> 違ふと思ひます。スケジュールがどちらかが早いからこちらを選んだではなく、スケジュールも大切で、要因の一つではあるけれど、一番大切なのは、子供たちの安全安心な学校としてどういふ教育環境の中で学んでもらうのが、一番、安全安心を確保できるのか、そして望ましい教育といふものを実践できるのか、そういった視点から、我々としては、今の提案を選ばせていただいたと思つてます。ですから、耐震ができるかとか、そのお金がいくらかかるとかいうところも当然考えなきゃいけないところではあります。皆様の税金の中から出て行くわけですからそれを全く考えないで、こうですよといふふうには言えません。ただ、やはり教育委員会としては、まずは子供たちのためといふのが、まずはあるべき姿ではないかなといふことでこういふ提案をさせていただいたといふことでご理解してください。 </p>
<p>住民5</p>	<p> それ、子供たちのために今なつていますか。ずっと長引かさせて、同じような議論ずっと続けていますけど、子供にいい影響を与えているのでしょうか。でもう、時間も経ち、卒業された方もいて子供がもう高校とか中学校に行つたら小学校問題にもうちょっと飽き飽きされてるといふか、もういいよ、みたいな、いい加減にしてくれつていふ方も声をかけます。そういう方もおられますし、学校選択制があつた頃はいろんな学校が選べてよかつた、多様な学校それぞれの特徴がある学校を選べて、子供たちも選ぶことができ、すごく良かつたつていふ卒業生もおられます。先程、教育長が言われる、少人数学級の話ですけど、多様な意見を大人数では聴けるといひますが、それはオンライン授業で可能なのではないでしょうか。今ですと、全国の学級、どこかの学校と多様な意見は聴けると思ひますけど。 </p>
<p>宮本教育長</p>	<p> おっしゃるように、今の時代、オンラインでつなげてコミュニケーションを取ることができますので、小規模の学校であつてもそういった学校と繋いでですね。多様な意見や考えを聞く時間を取ることには出来 </p>

	<p>るとは思いますが、ただそれも1時間目から6時間目までずっとやるわけにもいけないですし、子供たちの生活の中でその授業だけではなくて、やっぱり休憩時間に友達と一緒に遊んだり、掃除の時間だったり、給食の時間だったり、いろんな活動を通してそういったいろんな考え方があるんだな、いろんな価値観があるんだなと、いろんな自分のこう思ってるけど、お友達は自分とは違う感じ方をするんだなと学校生活全体を通して染みるように感じていくものではないかなというふうに思いますので、おっしゃるように時間を限定して、いろんな学校とつないで多様な見方、感じ方を養う、そこは可能なんじゃないかなと思います。</p>
<p>住民5</p>	<p>ありがとうございます。コミュニケーション能力が、少人数だと落ちるので、というお話で、企業が求めるコミュニケーション能力と言われますけど、もちろんそういうお考えではないでしょうけど、企業に行くためだけに学校があるわけではないと思いますので、いろんな将来があると思いますので、そちらだけを重視するのはどうかなと思います。あと、先生に依存してしまうっていうお話ですけど、大人数だと目が届きにくい、自主性が育つといいですが、目が届きにくかったらちょっとした生徒の変化だったり、いじめなんかに気付きにくくなると思うんですね。なので、それは大ごとだと思うですよ。むしろ、時代と逆行しているなと思いますので、それをメリットにあげるはちょっと教育者としておかしいんじゃないかなと思います。ちょっとストレートですけど。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>おっしゃるとおり、私が企業に求められる能力としてコミュニケーション能力が上位に挙がっていますよというのは、確かに皆さんが企業に行くわけじゃないですよ。ただ保護者の皆さんの立場を考えたときに、どの世界に行ってもですね。やっぱり人と思いを通わせることは、大切なところじゃないかなというふうに思いますので。1企業の話をするというのは、確かに不適切だと思いますので、それはまた、今おっしゃたことはその通りかなと思います。で、少人数で自主性が育ちにくいとか、少人数の方が目が届きやすくていろんな子供の変化に気づきやすいというのはそれはよくわかるんですけど。少人数がいいと言ってもどのくらいの少人数がいいという話ですよ。30人や40人に比べて25人は少人数ですけど。私が思うのが、令和3年度に、調査をしているんですが、その問いですね、その時に小学校で言うと一番多いのが21人から25人のカテゴリーで36.1%、それから次に多</p>

	<p>いのが26人から30人のカテゴリーでこれが35.2%なんですね。だから20人から30人までが保護者の皆さん市民の皆さんですよ、70%を超える方がそのくらいの人数が望ましいじゃないかと答えられていますので、いくら少人数がいいと言っても、1人から10人のカテゴリーは0.3%しか支持されていないんですね。だからやっぱり適切な規模というのがあると思いますし、それをアンケートでも保護者さんが回答されていますので、そういったところも参考にしていく必要があるのかなと思います。</p>
<p>住民5</p>	<p>春になるんですけど、地域エコノミストっていう方のお話を聞きに行かせていただいたんですね、尾道駅前にその時の講演をその時に言われてたのは、学校の数が減ったら子供の数が増えたところはない、地域はないっていう話を断言されてたんですね。ある島では、1校しかなかった学校を2校にしたところ、子供の数が増えたとするデータを出されてて、だから学校が地域から無くなることは衰退しか見えてこないかと思うんですね。なので、大林監督をはじめ、多くの方が発信されて素晴らしい街として今認められてる尾道、旧市街地と言われるこの辺りの学校をなくすってことは、相当移住を鈍らせるというか、県外から移住されて坂道に住みたいとか、この古い町並みを見に来られてる方、若い方おられますけど、子育て尾道でしようっていうふうにはなれないかと思うんですね。1校しかなくて、しかも通学しにくいところがあると。なので僕は個人的には土堂だけじゃなくて3校とも耐震で残していただいて、身近なところに学校があるというのが理想です。お金の問題、お金の問題って言われますけど、先程も、そんなにまあちょっと高く見積もっておられると思うんですけど、そこまでかかってないと思うので、何とかやりくりして残す方向に、もうなんか民意が届かないような今状態になっているので、ちゃんと市民の思いをすくって、案を出していただきたいというか、毎回その私たちが求めている案とは違う案ばかり提案されているので、もうそれではちょっと話し合いにもならないかと思うので、開催するだけ、開催すればいいっていうのは、今後やめていただきたいかと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>住民6</p>	<p>西御所町内会長をしています〇〇といいます。市議会議員をしています。今回は以前の説明に疑問とされていることに対応していますのでそれは良しとしますね。今、小人数の問題が話をされていますけどね。これどちらがいいという結論は学者の間でも出されていないんですよ。土堂小学校の問題で言うと、そのことに関連しますけどね、今あな</p>

た方が26ページに示された、平成14年に出された学年の適正な学級数は複数学級であると、要するに1学年に2クラス以上あることだと。もう30年以上前の話ですよ。出された方針ですよ。30年というと三昔というんですかね。人口が減っている。それからあなた方が言われている、議会でも言いましたし、ここでも言いましたが、実際に1学年が複数あるというのは、市内の内でも4分の1しかないのですよ。それを敢えて、この土堂小学校の統合の問題で柱にするというのは、無理があると思いませんか。そういうことをもう一回確認させてください。それから耐震化の問題ですが、私も新庁舎が建てる問題が起こった時に学者さんに色々聞いたりして勉強しました。いまあなた方が資料の9ページに出されているコンクリートが劣化するというのは、中性化の進行が進むと鉄筋が錆びてくる。この2つの問題が進行してくると弱くなってそれは結局IS値という地震に対する強さにいわば収束されてくるわけです。今は、別建てに考えているけど、以前に、私が第1次案の時に説明を聞いた時は、居ながら耐震が難しい。実は20ヶ月かかるかという話は皆さん記憶ありますよね。おそらく市内の小中学校ほとんど100%と言いましたが、私の知りえる限りでは、全部夏休みの時に子供さんがいないときに、40日程度でやられているんですよ。だと思いませんか。それでなおかつ、議会でも言いましたけれども、土堂小学校のIS値は、それより30年以上後に建てられました吉和小学校や栗原小学校のIS値よりいいんですよ。久保小学校もそうですが。そうするとそういうところでは、もちろんさっき紹介したようにコンクリートの劣化が進むとあなた方は、大規模改修をしてコンクリートの長寿命化改修をしないといけない、だからその土堂小学校でも耐震化と同時にそういうのをやるからこのくらいの一定の規模のかなり数字の大きい額になるんだといっていますが、これまで吉和小学校や栗原小学校をやった時に長寿命化のためにコンクリートの中性化対策をおそらくIS値が高くないのでやっていないといけないんですがやっていたんですか。その点について聞かせてください。

三浦学校経営企画課長

まず、先程の全市的な少人数化が進んでいるのではないかという指摘でございます。これは確かに複数学級ではなくて、単一の学級がある学年が増えてきています。全市的に少子化、人口減少が進む中で、そういう状態がありまして、これが決していい状態であるとは我々は思っておりません。ですので、今後人口の推計、先程もご質問がございましたけれども、今後どういうふうに推移していくのかを見ながら、何が子供たちにとって一番いいのか課題意識をもって考えていきたいというふ

<p>末國庶務課長</p>	<p>うに思っています。ただこの度の土堂小学校を含む中心部の学校につきましても、安全性の確保からこの議論が始まりましたけれども、何度も説明しているとおり、やはり土堂の子供たちにとって何が一番いいのだろうかと考えた結果、令和10年度には複式学級が生じるということです。子供たちが、複式学級が良い悪いといった議論がありますけれども、一定の規模の中で学ばせてやりたいという思いから、この度は提案させてもらっています。</p> <p>続きまして、施設の耐震化の件でございます、施設の耐震化と一緒に大規模改修をしたのかどうかでございます。尾道市の学校の耐震化につきましても、非常に全国的に見れば遅れておりました。そのために、本来であれば、耐震化のタイミングで大規模改修する方が通常であると思うんですけれども、こちらについては、まずは耐震化するという事に取り組んできた。取組が一段落したので、大規模改修等を今後進めていきたい。</p>
<p>住民6</p>	<p>まず、適正規模の学級、人数というのは、先程言われましたが、ずっと人口が減っているのは、あなた方も承知しているはずですよ。だから、時代に合った対応をしないといけないわけですよ。30年以上も前にできた1学年複数学級というのを金科玉条如くではなくて、今の時代にマッチしたように、あなた方が考えないといけない。それをまあ土堂の3小学校の統合に大きな柱として、理由としてもって来るといえるのは、私は無理がある。皆さんそうじゃないですか。それから、耐震化の問題ですけれども、先程のスライドを使っての説明の中では長寿命化をするからコンクリートにいろんな加工をするので、天井も廊下も剥がないといけないといった説明だったけれども、それはそれでいいのかどうか。その費用の方が耐震化よりも高い費用がかかっている。当初、耐震のためには20か月必要だとかかるんだと言われたのが、今ではそれが3、4年単位ですか。以前の時は全くそんな話では無かった。第1次案の時は、耐震の20か月かかるんだということの整合性をもういっぺん分かるように説明してください。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>耐震化と同時に大規模改修を合わせてお示ししているが、市内全ての耐震化を本来であれば同時に行うべきところであったのが、そういったところについては、言ってしまうと後回しで、耐震化を最優先した。耐震化が一段落した状態であるので、この度は大規模改修を同時に行う本来あるべき姿をお示ししている。</p>

<p>住民 6</p>	<p>最後にしますけれども、以前、私が議員をしていた時にも長江小学校の大規模改修が出ました、私の理解では、コンクリートの壁が落ちたりするので、これは耐震化とはセットではないと思っていますよ。それからコンクリートが劣化する錆がくるといことで I S 値がそれぞれ違いますが、I S 値に応じた耐震の工事をするわけですから、専門な方がいませんけど、古いからダメなんだと持たないんだと I S 値に応じた弱いなら弱いなりの耐震工事をするわけですから、同じ工事をするわけではないので、ここにありますが、古いからダメなんだと以前この説明会でそんなことはありませんよという話を紹介させた方がいましたけれども、だから、今話を聞いた段階だけでも、私自身の考えや今までの経過からしても、それはそうですね、というふうに納得できるものではありませんということ是指摘をしておきます。</p>
<p>住民 7</p>	<p>こんばんは。地区で民生委員をしています。〇〇といいます。それで、先程の方が言われた、土堂小学校が無くなったら地域はどうかというご質問がありました。筒湯の小学校は廃校になりました。美木、原田、もう一つ3校ですか、あそこの小学校も統合になりました。でもあそこの地区はそれぞれ地域のお祭りをされて地域の活動をされています。私は社会福祉協議会の副会長もしていますから、いろいろ考えますが、土堂小学校が無くても土堂という町名があるし、この社会福祉協議会を基にいろいろな活動を続けようと思います。そして30年前という話もありますし、7、8年前という話があります。そして多分前々回の議員の改選時期に合わせて土堂を含む3校の統合が出たと思います。あの時は、他の意味で統合案が表に出たと陰口をたたきました。でも今いろいろ伺った統合後にできる学校が示す方向が今土堂小学校、長江小学校、久保小学校に通われて、この新しい学校に行かれるお子さんたち、その兄弟達でそのあとに続いて通われるお子さんたち、4年後に地についた運営が行われるようになったときに、来て良かったという学校作りをしていただけたかということをお聞きして、それに確実なご返事をいただけたら、今皆さんここで聞かれているのは建築の話をしているんですね、それは市役所の建て替えの時も同じですよ。延々いろんな話をして、まだ自信がないのかもしれませんが教育委員会のタイトルバックの写真にはまだ公会堂が映っていますよ。これは笑い話ではないですけど、やはり、これから創る小学校、中学校、統合校なのか、単一校なのか知りませんが、それが今行かれている子供さんたち、そしてその子供さんの後に続けられる方が来て</p>

	<p>良かった。そして安全については、うちの家の前から毎日バスで千光寺へ街を一周して上がる土堂小学校の生徒さんもおります。それでも安全です。うちは山道を登るからといってお父さんがついて登る家庭もあります、それも安全です。でもそれは皆さん子供が安全に学校に行って授業を受けて帰るための約束でしているんだと思います。これを長江のグラウンドにできる新小学校が今の置かれている子供たちの6年先、少なくとも小学校の教育に関して、平原の日比崎問題を見ても、新高山も山波問題も見ても、これから起こりうるだろう高須の高須小学校の問題についても、こういったところの範になる小学校ができるということが、今の教育委員会でお約束していただけるのかどうか1点だけお聞きしたいと思います。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>今、おっしゃった新しい統合した学校を来て良かった、ここで学んで良かったと思えるそういう学校にしていきます。以上です。</p>
<p>住民7</p>	<p>(拍手で返す)</p>
<p>住民8</p>	<p>今回、初めて参加させていただいたんですけど、先程街づくりということで、この学校ですね、もし廃校にされてその後の跡地をどうすのかがその後の話だと言われたんですけども、そうすると例えば今住民の皆さんがおっしゃられたどんどん子供が減っているのに学校が無くなってしまったらもっと減ってゆく大体どこの地域もそうなっていますよね、学校が減ると子供が減って地域が衰退していく、この廃校も廃校のまま置いておくとやはり活用されないまま衰退していく方向になると思うので、例えばですよ、新しくここを何にどうしていくという話は学校を建てると同時に進めなければ、どんどん遅れていく問題だと思うんですよ。それがなぜ後回しになるのかなということ。それと、地域づくり、お子さんが減っていく前提ですけど、逆にこの尾道に来ていただいて児童を増やす方向の案は検討はしていないのかと不思議なところですね。あと、例えば、ここを廃校にしました、1点お金がかかると言いましたよね、道路に新しくスロープを付けて。そのお金、例えば廃校にして取り壊す、持ち出す、それ同じようにお金がかかるのではないか。耐震工事の時にかかるお金。同じように予算が発生する。ということは、市ではその予算出せません。ということは、売却ということになるのかな。となると、例えば企業が買われる、地域の皆さんの意向と沿わない、街並みから外れる近代的な建物を建ててしまう。そういうことになっていくのではないかと思います。</p>

うんですけど。学校だけを先に建てるのではなくて、街づくり全体として考えられないのかとすごく疑問ですね。ちょっと戻ってしまうんですけれど、人間関係の固定化がなぜいけないのか。その小学校の間の少人数の人間関係ですね。すごく濃厚な人間関係が作れると思うんですよ。私、向島で育ちました。西側の人数の多い学校で育っています。小学校5クラスありました、今は全然希薄で、人間関係その当時の友達はつながっていません。けど、東側人数の少ない学校、今も今の年齢になっても交流がある、集まって話すっていう地域性、多いから少ないからっていうメリット、デメリット言われていましたけど、そういう人間関係、人として大事なところ、そういうところも子供たちのために考えてあげなければいけないかなと思います。なので、学校を創る安全のためだけではなく、安全のためなら、ここをどうするのかというのを同時に考えていかなければ、どんどん統合してもまた衰退していく減っていくということになりますので、どうやったら尾道の地域に人が呼べるのかっていうのは、必ず同時に政策としてやっていかなければいけないことかと思えます。ちょっと意見になってしまったんですけど。そういうことを考えていただければ、学校の事だけでなく、尾道市をどうしていく、全体を考えてからいろいろな事柄を決めていった方がいいのではないかな。ちょっと意見になってしまったんですけど。例えば、次回、もう一個言います。住民の皆さんがここが他の施設ではなく学校がいいとおっしゃっているんで、そこを人数を増やす方法を一緒に考えましょうとそういう案の方も出していただければというふうに思います。以上です。質問じゃないんですけど。

住民9

本日は、説明ありがとうございます。向島で子供食堂のようなことをして子供と遊んでいるおっさんなんですけど、先程校庭で小学生がいて「あんなどこ登っていくん？」と言ったら、「行きようる」っていうんですよね、「〇〇じい無理だわ」って話をしていたのですが、たぶん教育委員会の方は、子供の気持ちを分かっているなと思うんです。子供は学校が近い方がいいです。楽です。それは子供の気持ちを私が代弁しておきます。以上です。

住民10

私、先程、社会福祉協議会の会長さんか副会長さんが言われたことはまさにそのとおりだと思います。そのとおりだと思って、批判をしたいと思います。どういう事かというと、子供たちが卒業して、来て良かったなという学校を創っていただきたい。そのことに関しては、ほとんどの方が一致しているのではないかと思います。でもそれにそういう

学校になるのかなあとと思って第1回目の時に、参加した時に伺っていたんですけど、教育長さんは違っていましたけれども、今日伺っても本当に新しい教育ができるのかなあとの中身で、今日出されたことを何点か思いを語られていましたけれども、例えばモジュール学習などは1980年代にアメリカでやっていたことですし、それから新しい授業の提案と言って国語の例、英語の例、音楽の例を出されていましたが、教師が一方的に話してそれを聞くなんていう授業をまだやっていたのと驚いてしまったわけです。私が尾道に帰ってきて、尾道に15年離れていましたけれども、帰ってきて、もし教育長がおっしゃられていることをやられているのなら、尾道の教育って、小学校はひどい教育をやられていたんだなあと思いました。きっとそういうことではなかったかと思います。いくつかあります、例えば少人数であろうが大人数であろうがそれは一長一短がありましようから、どうなのか。でも、さっきどなたかがおっしゃっていましたが、世の中変わってきていますから、コミュニケーションの形態というのもやはり時代と共に変容していますから、それに合わせたことを提言してくれたらいいんですけど、なんか古い授業のことばかり持ち出して一方的に伝達的なそんなことをやっている学校は本当におかしいな、そこからどうするのかって提案がないから私なんかはいらいらしてくるわけなんです。もう少し叡智学園のことを、叡智学園って私も知りませんでしたから後から聞いてみたんですけども中高一貫教育ですよ。その教育方法を譜面にしてアレンジしてやるってなんか参考になるんですか。小学校中学校の一貫教育ってずっと言っていますけれど、小中一貫教育って小学校の先生と中学校の先生が一体となってやらないといけないのでしょ、何回も指摘されていますけれども、それを違う学区内、校舎でやっててその間を行ったり来たりしながら先生同士が行き交うことは相当なエネルギーのいる仕事だということは、素人の私にも分かりますよ。そういうことの乗り換える提案をなさってくれるのなら、私たちも少しは安心するのですが、教育長さんが変わって私も期待しましたけれども、今日なされた例は非常に古い例じゃないかなと思うので不安なんです。そこのところをもう少し、これが新しい小学校の他にない、叡智にも出来ない、小学校中学校のプランだとお示しいただけたらありがたいなと思います。それがさっきの社会福祉協議会の副会長さんのおっしゃったことに叶うのではないかなと思うんですけど。以上です。

宮本教育長

まず、一つ目のモジュールの話ですけども、モジュールが始まったの

は、今ご説明しましたけれども、モジュールっていうのは、短い時間を利用して子供たちにしっかり定着させていくべき、音読は脳の活性化につながりますよね、それから計算、漢字、語句いろんな短時間で繰り返しやることで効果が上がる、そういう学習の形態だと思うんですよね、これはやっぱり私はすごく効果の高い学習方法だと思っていますので、古いとか新しいとかあるかも知れませんが、効果のあるものはやはりやる必要があると思います。それから新しい授業について、お話をしましたけれども、全部が全部、教師主導の一斉授業、知識伝達型の授業だとは思っていません、小学校でなんかはコロナ以前は、授業の中でグループで考えを出しあったりとかペアで考えを出し合って発表したりとかそういう授業も行われていたと承知しています。ですから、そういう中でコロナです、他の方とお話をするっていうのが難しい状況にここ何年かはなっていましたので、学校を見に行った時に、一斉授業の形態がどうしてもまだまだあるなあと感じます。ですので、これからの新しい教育に向けて変えていきたいと思っています。特に叡智学園の中高一貫教育で、いま私たちが提案しているのが、小中一貫教育校で、何が参考になるかというお話ですけど、叡智学園の授業を見たときに子供たちが学びたい、これが疑問だからこれを考えたいということをきちんと子供たちの疑問から出発した授業を先生方が作ろうと努力しているわけですね。ですので、これは尾道だけの問題だけではなくて、日本中がまだまだそういう授業になっていない。だから学習指導要領で主体的で対話的で深い学びを実現しましょう。ということで、今学校で行われている教育活動は学習指導要領に基づいて行われているわけです。ですので、日本の教育というのは、知識伝達の教師主導の一斉授業がまだまだやっぱり払拭できていない、これが現実ではないかと思っています。ですから批判を受けるというのはしっかり真摯に受け止め、それを変えていく努力を私たちはしていきたい。ということで私たちは提案申しあげたところです。以上です。

住民10

一言だけ言わせてください。まあ、一言でおっしゃるのは非常に難しいと思うんですけど、これが他と違うユニークな点だということは今述べられたらおっしゃっていただきたいんですけど。今言われたことは、はっきり言ってどうでもいえる返答でしょ。つまり一斉授業がまだまだあるから。それは分かっていますよ。そんなことは。そうじゃなくて今度新しく創る小中一貫校のセールスポイントはこれだという何かはないんですか。

宮本教育長	<p>この話は、私土堂小学校の校長をさせていただいた時のことを少し話させていただきたいんですけど、すごく全国の先生方が土堂小学校に来られて研究会で学びたいということで全国的に土堂小学校が有名になりました。ですから今おっしゃっているのはそういうふうにこの学校ならではの特徴を出した学校を創るべきだとおっしゃっていると思うんですけど、ただこのことについては、市民の皆さんにはいろんなご意見があるんです。と言いますのは、冒頭にも申しあげましたけれども、特別のエリート校を創るんじゃないかと、私が叡智学園の話をしましたらそのように受けたられる方がいました。そうじゃありません。どこの学校も教育の中身を上げていかなければいけません。これが私の役目だと思います。土堂だけが良くなるわけではありません。土堂も良くなれば、どの学校も良くならなければなりません。ですから今ここでこの新しい学校が、他の学校にないこういう素晴らしい学校についていうところは、私の方では今のところ考えていません。ただ土堂の皆さんはいままで土堂小学校はそういう素晴らしい学校だというふうに誇りをもっていましたから、当然そのような気持ち、今度出来る学校がほかにない素晴らしい学校にして欲しいという思いはすごく感じていますけれども、ただ立場上やはり市内全ての学校を良くしていく、特別にここだけが良くなるといった発想では教育長としていけないんだとそういうふうに思っています。</p>
住民10	<p>今も使っていらっしゃる言葉が、特別なエリートを作らない、エリートの定義をどのようにお考えですか。一般的な小中学校でもエリート教育、エリートを創る教育というのは研究会のテーマで掲げているところはたくさんありますよ。ご存じだと思いますけど。だからエリートっていうと特別なエリートという形容詞が付く発想が古いと申し上げているんです。以上です。もう議論はしません。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>時間も経過してまいりましたので、ここで、あと何人質問されるか確認させてください。質問のある方は、挙手をお願いします。 （人数を確認） それでは、あと10人程の方の質問までとさせていただきます。</p>
住民11	<p>ありがとうございます。私は、土堂小学校の学校運営協議会の副会長をしております。平成17年度からこの土堂小学校は広島県で初めてコミュニティ・スクールということで地域とともに学ぶ学校ということで私もずっと参加させていただいております。その中で昨年3月2</p>

0日に土堂小学校の存続に関する要望書を前佐藤教育長にお願いしました。当協議会の会長でもある広島大学の名誉教授の先生のもと同席しての教育委員会に出ていったの提出でした。その後4か月経ちますが、この要望書に対するご返事が全くございません。運営協議会も年に4回ほど開催しておりますが、そのたびに統廃合に関する話を聞かせてくださいと協議会でお話しても、私は統廃合の担当ではないのでお答えできません。それでは次は教育長を呼んでくださいと要望を出しても、一度も教育長もその場に足を踏み入れることは一度もありませんでした。我々土堂小学校の運営協議会は地教行法の第47条の5に定められた法律に基づく会であります。その会をないがしろにして、出さないという教育委員会に対して非常な憤りを持っています。私達は、この18年間学校運営協議会のために力を注いできたのか、徒労感でいっぱいあります。新しい宮本教育長にそのことをご答弁いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

宮本教育長

この要望書について、私、読ませていただきました。土堂小学校今年で123年目ですよ。123年目の歴史を持って常に先進的な教育を実践されて市内広域から私も校長をしている時、通ってきてくれていました。それだけに土堂小学校教育を支持してくれている人がたくさんいらっしゃるんだということで当時うれしく思っていたところです。この要望書には、昭和30年代に外務省から海外に日本の小学校を紹介する代表として土堂小学校が選ばれた、皆様にとっては、誇り高い学校である、私もその海外に紹介するビデオ、校長室の戸棚にありましたから何回も見させていただきました。それから、土堂小学校の東側校舎は戦前に建てられたコンクリート造りの優美なデザインでランドマークでございます。ですから文化財としても貴重な価値を持っているということも認識しております。私が校長時代、京都から、大学の先生が、学生さんを連れて夏休みに来られました。校舎のいろんなところを写真に撮ったり、メジャーで測ったり、その時に私も先生からここが素晴らしいんですよと実際にいろんなところを教えていただいたそういう記憶がございます。ですので、皆さんのそうした思いがこの要望書に書かれていましたので、本当にこの要望書を読ませていただいて、皆さんの思いは強く感じているところでございます。学校運営協議会の方にも私は大変お世話になりました、ここにも学校運営協議会の委員の方も何人かおいでになっていらっしゃいます。本当に学校運営を支えていただき、また校長へもいろいろアドバイスしていただき、また地域との懸け橋になっていただき、いろんな面で

支えていただきました。ありがたいなあと今でも感謝しているところです。ですので、そうした中で学校運営協議会の要望書を読ませていただいて、土堂小学校の存続を願っておられる地域の皆様には本当に複雑な気持ちで誠に申し訳なく思って断腸の思いで、こういったご提案を今、させていただいているところでございます。ある程度年月は必要になって来るかと思えますけれど、もし、ご提案を仕方がないなあと言っただけのらであれば、新しく創る学校が、本当に来て良かった、学んで良かったと思えるそういう学校にしていきたい。そういう思いで、皆さんの思いに反するようなことを申し上げるのは大変辛いのですが、そういう思いでここに立たせていただいています。学校運営協議会の皆さんの思いもしっかり受け止めさせていただいていますが、本当に断腸の思いで、提案を申し上げているということでお許しいただきたいと思えます。

住民1 1

ありがとうございました。今の宮本教育長のお答えが、我々、学校運営協議会が出した要望書に対するお答えだというふうに受け止めますが、この地域から本当に子供の声が無くなり、活気が無くなり、お年寄りが悲しみ、そういう地域を創っていくのが、行政の姿でしょうか。地域をしっかりとサポートしていくのが行政の仕事であり、小さいお子さんからお年寄りの方までが、この地域に住んでよかったなと思っているから今日ここにこれだけ地域の方が集まっているわけで、他の地区でこれだけの人数が集まる地区があったでしょうか。我々はそういう強い地域への思いを持った同志だと思っておりますから、これからは教育委員会が進める案に対しては、徹底的に戦っていくつもりですのでよろしく願いいたします。ありがとうございました

住民1 2

皆さんいろいろ具体的な話をしていますので、総論的な話をさせてください。まず、教育委員会が出されていますのは、初めに廃校ありきで出させていますよね、ここをどうやったら残るのかという発想が欠けていますよね。今、1 2 3年と言われましたが、ここが1 0 0周年の時に児童数がいくらだったかご存じですか。教育長が3 4くらいの時ですかね、ご存じないでしょう。当時6 0数名です。2 3年前、当時も土堂小学校は廃校にするかどうかどうするかといったときに、あなた方の先輩が知恵を絞って4倍以上2 6 0数名の学校まで伸ばしてきたんですね。しかも中身を伴って、土堂小学校が誇りがあるかどうか以前に、まず中心市街地、駅に近い学校を無くして栄えた街が全国に1か所でもありますか。それをお調べになっていますか。私が知る限りゼロ

です。そういう街は、衰退していった栄えた街はありません。そういう街づくりの視点があなた方には欠けている。まず廃校ありきだから、これを残すためにどうしたらいいか。また小中一貫校と言っていますが、小学校と中学校の距離はどれくらいありますか。答えてみてください。約1Kmですよ。なんでも小中一貫校と言えば1Km離れようとも10Km離れていようとも小中一貫校で通るんですか、日比崎小学校と日比崎中学校の距離はいくらですか。直線距離で140mですよ。なぜそんなところを先にやらないんですか。だから、ここを廃校にするための取って付けたような名前を次々変えて来るだけなんです。あなた方は。そして宮本教育長は、今後こういう思いでこうして良くするんだとおっしゃいますが、じゃあ、あなたの前の16年間、平谷市政になって16年間の教育長は全部だめだったということですか、それであなたが今後10年、20年、30年と教育長を続けるんですか。だから、そういった詭弁をろうしてはだめです。過去全部失敗してきているわけですから、教育長出身者が市長になって16年間、広島県の中でも尾道市の教育は低レベルをずっと来ているですよ。上がったことがないですよ。この現実をどう考えるんですか。地域の方々の声を1回取り入れてはどうですか。また、耐震工事をするのに、ちょっと今資料を見ていると22億ですか。かかるのが。あなた方は耐震がいろいろ言いますが、土堂小学校の東校舎のコンクリートの柱の強度がどれくらいあるかご存じですか。そして今小学校が建てる時の設計強度がいくらで造っているかそういうのご存じで言っているのですか。全くご存じないでしょう。ただ誰かに言われた数字を受け売りで我々に言っているだけでしょう。違いますか。ここ私も知りませんが、例えば市役所で言えば、旧の最初に造った市役所の柱の強度が54あったんです。これどういうことかと言ったら、向島の中央小学校、これ新しい校舎を建てる時の設計強度が27であったんです。倍の強度を持っているのを古いからだめだって言って潰したんです。根拠がないんです。昭和40年代に建て増したところ、これは海砂使っていますから、劣化するのは当たり前なんです。土堂小学校はそれ以前ですから劣化しないんです。つまりそういった具合に自分たちに都合のいい数字だけを挙げて、危険だ、だめだ、うんぬん、そしてここは危険地域じゃない、耐震ができるようになったら、小中一貫校、1Km離れたところでどうやって小中一貫校の教育をするんですか。子供たちが毎日何回も往復するんですか。そんなことはありえないでしょう。栗中の方に行った方がはるかに近いじゃないですか。北高を跨いで。だから、何の意味のないことをあなた方おっしゃっているの

す。ですから、もう一度これだけの方々が反対している地域の声を尊重するというのを歴代の教育長は言ってきたのですから、あなたの代になって議会でも変えるつもりはありませんと全く地域の声は無視するということを断言しているのはあなたなんです。やっぱり、地域がないと学校は存続しません。地域のサポートがないと学校は存続、継続できないですよ。もう一度真摯になって、あなた方は、この皆さんの市民の税金で飯を食っている訳でしょう。食っているあなた方がなぜ納税者の話を聞こうとしないんですか。なんで偉くなっているんですか。もともとはそういう形ではなかったはずです。誰かの指示で言わせられているのかもしれませんが、地域あってこそその学校でしょ。そして駅にこれだけ近い、そして尾道市の金太郎飴の教育をしてどうするんですか。うちの子供は音楽に優れている、芸術系の力の入れている学校に行かせたい、小学校からでも、あるいは勉強したいからここに行きたい、情操教育をしっかりと学ばせたいからここに行きたい、それだけ校長に特色を持たせた学校で選択制を全校にしたらいだけでしょう。そして地域で生まれたらその学校にしか行けないというのは大きな間違いですよ。尾道の子は世界に羽ばたいてはいけないのですか。もっとあなた方は視野を広げて、世界を見てください。あまりに矮小化しすぎていませんか。その教育がいいというのは16年間聞かせて全部失敗している、現実を見て下さい。それで信用しろと言ってどうやって信用できますか。たったその間に、陰山先生が3年間余りで廃校寸前だった学校を全校に轟く学校に育て上げて、その流れからで尾道の教育が一時全国に知れ渡って訳でしょう。それをあなた方はまた潰そうとしているんです。土堂に誇りがあるんです。陰山先生がたまたま廃校寸前の土堂小学校の校長になられたということで、これが久保小学校なら久保小学校が全国に鳴り響いたでしょう。そういう点を、改めてしっかりと受け止めなきゃ、これは大変あなた方暴挙進めようとしています。市民の声を聞かない教育、我々の言うことを黙って聞けばいいんだと右から聞いたんで左に聞き流す、そんなことで尾道にいて誰が子供たちを尾道の教育を受けさせたいですか。現実には何人もの子供が出ていっているんですよ。尾道から、この街に失望して、私が知っているだけで8人の子供が出ていきました。小学生とそれ以下が。その点は初めから結論ありきではなく、もう一度見直して、そして耐震が22億もかからないで一桁少ない数字だったら、皆さん方、特に教育長、責任を取って辞めるんですか。むちゃくちゃな数字を出しましたと辞めますか。一桁でできますよ、こんなものは、なんで20億以上もかかりますか。まあこれはあなたが計算したも

	<p>のではなく、これを言えと言われたんで出されたんでしょうけれども、それでも言うからにはあなたに責任がある、あなたが消化しないと下痢をしてはいけません。自分でかみ砕いてこれが妥当かどうか、責任者は自分で考えなきゃ。そういうことでね、結論を絶対急いではいけない。本当に子供たちの安全を思って早く何とかしたいんなら耐震をすればいいじゃないですか。1年なんてかかりませんよ。議論している間に終わりますよ。そのうえで考えればいいじゃないですか。そういうことは、あなたたち子供たちの事は何も考えていないと口先だけで俺たちの言うようやればいいんだ。それを通そうとしているだけとしか聞こえません。本当に心配なら直ぐにやりなさいよ。やれと言えば、お金がかかると言うけれども、この前も言ったかもわかりませんが、教育委員会が無知のために5億何10億といった金を無駄に捨ててきているんですよ。具体的にいくらでも言えます。耐震工事なんかも合併特例債を使えるのを知らないでやっていて、5億の金を尾道水道に捨てているんですよ、あなた方は。1億円、2億円の金は何ですか、それが。学校給食の件もこの前話しましたように、早く気付けば、200億円の金が尾道水道に捨てなくてすんでいたんですよ。それをあなた方は一つも言わないで、どれだけ市民の税金を尾道水道に捨てていますか。どぶに捨てたんじゃ流れないんですよ、多すぎて金額が。それを考えて、教育長。今日の土堂のこの雰囲気を見て強引に進めるんじゃないに、プーチンになっちゃだめですよ。民主国家でしょうがここは。それだけを言わせていただきます。</p>
住民13	<p>議員の〇〇です。私は向東なんですけれども、やがてうちにも起こる問題なんだろうと思って、今日で5回目になるんですけども聞かせていただいています。先程この耐震が22億、高いと言われてますけれども、長江と久保の耐震の試算も教えてください。</p>
末國庶務課長	<p>まず、本日、長江と久保の耐震補強の資料は持ち合わせていません。また長江小学校の方は、もともとは久保小学校の方へ建て替えということで、三小を統合した久保小学校のところで18億円という試算がございます。</p>
住民13	<p>久保の小学校に耐震工事をしたら18億円ということですか。</p>
末國庶務課長	<p>久保の小学校につきましては、統合・建替しましたら、18億円程度ではないかと試算しています。</p>

住民13	<p>長江は耐震の工事の試算は出されたんですか。</p>
末國庶務課長	<p>長江小学校についても耐震化ということで、検討は進めさせていただきましたけれども、建物を耐震化するだけでなく、建物を減築する必要があること、それから学校の周囲も工事が必要ということから、現実的には困難であるということで、長江中学校の敷地に建て替えるというのが当時の最終的な結論でございます。</p>
住民13	<p>耐震工事は施せないという意味でしょうか。</p>
末國庶務課長	<p>そうですね。耐震工事については、難しいという結論に達しているということです。</p>
住民13	<p>なるほど。それで、ちょっと前に割と教育界に影響力ある方にこのことに対して聞いたんですが、教育長やここの教育委員会がその何か欲があるという訳ではないんですが、大体、こういう統合を進めていることとか英語教育を盛んに言い出したのは、すべて裏で儲かる人たちがいるからだとかアドバイスとか説明をいただきました。それが、本当に子供の事を思ってやっていることであるならば、30年後に日本がどうなるか予測してやっているかどうか聞いてみなさいと言われてました。例えば、GDPがいくらになって、就職率がいくらぐらいで、尾道の街、日本って国ががどのようになるか想定されてこのような教育をするべきだと結論を出されたんでしょうか。</p>
小柳学校教育部長	<p>私たちは、公教育を司っておりますので、基本的には、国の学習指導要領に基づいて教育を行っております。30年後の姿ですけれども、人口減少という面からいきますと、尾道市で言いますとやはり10万を維持できるかどうかということではないかと思えます。もっと少なくなっているかもしれませんし、子供の数も今591人、昨年も出生されておりますけれども、これはやはりなかなか増えていくことは、増えていけばいいですけれども、やはり減少していく可能性の方が高いのではないかと考えています。そういった5年後、10年後、20年後、短期、中期、長期ということを考えて教育行政をしていかなければならないと思えますけれども、今のところで言いますと、最初の再編案のところでは言いましたけれども、まずはこの喫緊の課題である久保・長江中学校区の再編をさせていただいた後に、児童・生徒数の推移を見させていた</p>

<p>住民13</p>	<p>だきながら、市内全体の学校の在り方を、市全体の方向性、市政とも合わせながら考えていかなければいけないという考えを思っています。</p> <p>なるほど。ちょっと他の委員会でも同じような議論になったんですけども、国がやることっていうのも、市は市で国が推奨するからと言ってそれを鵜呑みにやるのではなくて、市は市で、その街その街の状況がありますので、出来るだけ再検討をしまして、市が取りうる最善の策を取るべきだと思います。例えば、先程言われたように、全員が英語をしゃべられるような教育を目指すというのは、ちょっと見ればナンセンスだとわかりますよね。先程言われました先生、教育界の方ですけども、言われたのは、まず英語をやれってしきりにいうのは、英語が一番金が動くからだということで、数学をやったり国語をやったりしてもそこでビジネスが生まれませんよね。で英語という新しい音声の教材だとか外国から先生を一人引っ張って来るとかという時に、一つ天下りの部署が増えたり、英語一つ導入するのにものすごい莫大なお金が動くからしきりに国は英語を進めるんだとそういう話をされました。例えばですね、あと5年もすればもうAIが発達して、同時通訳をして、英語なんて誰も勉強しなくて良くなるんですよ。でですね、尾道の街で100%英語をしゃべる必要はないし、コミュニケーション能力というのも全員が同じように持てるものでは元々ないですよ。やはり、夜中に道路工事をしてくれる人がいたり、魚を釣ってくれる人がいるから生活が成り立っているわけで、大企業がコミュニケーション能力を求めているからコミュニケーション能力を付ける教育をする。そのために人数が多い方が良いと言われましたけれど、私の同学年が200人居りましたけれども、別にコミュニケーション能力が付いた訳ではなかったですね。多様性も無かったです。先程誰か言われたようにタブレット1台ある方が有利なんですね。だから、一辺倒な教育というか、先程言いましたように誰かが得をするために、乗せられているイメージがあります。</p>
<p>住民14</p>	<p>ありがとうございます。ひとつ前の方がおっしゃったことに関連するんですけども、今回耐震の事についての説明は新たにいただきました。それは残さないという方向で耐震化を進めたらこうなるから残さないということですよ。他方残すというそのことの検討はされたんですか。もし残したらどういう方法があるかとか、例えば全国そういうところはいくつもあると思うんですが、前回の時に住民の方から残</p>

<p>末國庶務課長</p>	<p>している学校もいくつかあるという報告もありました。そういうことから考えるとそういう事の調査とか、例えば視察に行くとかそういう耐震化に対応するだけのそれだけの調査はされたんでしょうか。これは、教育委員会の方にお伺いします。</p> <p>先般ご意見を伺ったのは、東京の方の築80年以上経った学校を改修して使っている事例だと思っているんですけども、私共の方でも確認しておりますが、それぞれかなりの費用をかけて古い校舎を改修しておられたということは存じております。具体的には、東京の復興小学校は関東大震災で従前の学校がほとんど燃えてしまったことを教訓として震度7の地震に耐えるよう非常に強固に作られており、現在も非常に高い耐震数値を持っていると伺っています。このような学校を15億円程度使って改修して利用している状況などは、把握しています。</p>
<p>住民14</p>	<p>あのね、状況を把握しているかどうかではなくて、調べたんかと聞いているの。全国にいっぱいあるでしょう。1個か2個だけではなく、この前出た話だけじゃなく、そういうことを耐震化を検討したぐらいの量を残すためのそれだけのことを同じぐらいの量、調べたんですか。と言っているんですよ。そうしないと白紙に戻したって意味がないじゃないですか。もう造るという方向に向かってしかやっていないですもの。残すって方向を同じぐらいの量で調べて、こんだけ調べてもやっぱりこうだと実態を出してくれないと、反故にさせたとしか思えないですもの。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>まず、耐震化については、2回設計を行っています。</p>
<p>住民14</p>	<p>耐震化はいいです。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>結果もお示ししています。</p>
<p>住民14</p>	<p>それはわかりました。耐震化については、死ぬほど言っていますよね。だから、反対の残すという方向に対して万が一残すんだらどういう方法があるのだろうかということを考えたかと聞いているんですよ。そして調査・検討したかっていうことを聞いているんですよ。一個もしていないでしょ、こういったことを把握していますって把握しているか聞いていないですよ。調べたんですかと聞いているんですよ、そ</p>

	<p>うしないとおかしいでしょ。バランスが悪いですよ。方向が一方にしかベクトルが向いていないですよ。こちらの残さないというのなら、残すためにどうしたらいいか、住民や保護者は残していくために検討してくださいと思っていると思って1年待ったんですよ。残せないにしても、真摯な説明をしていただければ理解しようとしたはずですよ。それがあの唐突の22年の11月22日の発表だったわけですよ。まあ、あつげに取られるじゃないですか。皆。耐震化を最初に言ってですよ、それを今度は技術的には可能ということになったら、今度は目先を変えて危険地域、区域だからと言って、それもここだけではないとなったら、今度は転じて教育内容にいったわけでしょう。方向転校して3校統合、ついには中高一貫まで出て、叡智学園まで出て、なんですかこれ。わけわかんない。新校舎を建てるため何でもする。教育委員会大丈夫ですか。翻弄するにも程がありますよ。白紙にすると言われたことをしっかり向き合わなかったから、次々言い訳的な方向に進まざるを得なくなっているんですよ。ご理解をいただくべく説明していると何度も教育部長さんおっしゃっていましたが、ここを間違えたから、今のようになんて全く理解を得られない状態になっているのではないですか。次々加えていかれる提案を受け入れる訳ないじゃないですか。もう一回白紙とは何かを理解して、残すためにはどういう手があるかというところに真摯に向き合って、白紙の状態に戻って検討の仕方からやり直してください。どうですかしてくれますか。教育委員会にお尋ねいたします。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>まあ、今おっしゃったことを真摯に受け止めさせていただきたいとは思いますが、ただ、子供たちの事を考えますと、やはり仮設校舎にずっと今のままというのは決して望ましい姿ではないとそういうふうに思いますので、やはり本来のきちんとした校舎で適正な規模の集団でそういう環境で学ばせてやりたい、そのためにはやはりずっと議論する訳にはいかないの、どこかでは教育委員会として判断していかなければいけないと思っています。</p>
<p>住民14</p>	<p>やり方がまずかったことを認めたとしても、もう走り出したし、子供のために、こういうふうに新しい学校を創った方が良いので、この方向でいくということですね。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>そうです。</p>
<p>住民14</p>	<p>と言うことだそうです。皆さん。もう1点、これは教育長にお伺いし</p>

	<p>ます。千光寺の子供たちの状態がとてもひどいので、一刻でも早く何とかしないといけないという言葉は何度か伺いました、今日もお話で出ました。子供たちの熱い思いも感じました。宮本先生の。子供たちは宮本先生が来てくれたので戻れると言いました。子供たちが宮本先生をいかに慕っているか分かりました。宮本先生への信頼と土堂に帰れると思っっている子供たちの気持ちどう受け止めていますか。子供に聞かれたらどう答えられますか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>子供たちにですね、そういうふうに言っていただくことは、すごくありがたいことです。本当に、私が校長時代に一緒に過ごした子供たちがまだ千光寺の仮設校舎にいますし、一緒に頑張った先生方もいらっしゃいます。そういう意味では、すごく今でも愛着のある土堂小学校です。子供たちもどういうふうに今の状況を思っているかを考えると非常に心が傷むところなんですけれども、やはり尾道市の教育行政の責任を負う立場の者としては、いろんなご意見を伺いながらどの選択肢が子供たちにとってより良いものなのか、ということはしっかり慎重に皆さんのご意見、市民のご意見、いろんな方のご意見を聞いて最終的に慎重に判断していかなければいけない、そのように思っています。</p>
<p>住民14</p>	<p>子供に聞かれたらどういうふうに答えますかと聞いたんです。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>子供たちもいろいろな思いを持っていると思いますけれども・・・。</p>
<p>住民14</p>	<p>そうではなくて、宮本先生がどういうふうにお答えになりますか。例えば子供が、土堂小学校にはいつ帰られるんって聞かれたらどうお答えしますか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>皆にとって何がいいのかを今大人の人と議論しています。その中で、どういうものがいいのかを判断して皆にとっていいものを創っていきたいとそのように答えると思います。</p>
<p>住民14</p>	<p>分かりますか。それ子供が。校長の時はそのように思っていたけど、教育長になると立場が違うので、できない。そういうことですね。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>いま、おっしゃったことも、前校長としては、非常に複雑な気持ちです。子供たちの思いもしっかりと受け止めたいですし、ここにいらっしゃる地域の皆さんの思いもしっかり受け止めて、分かるところがもす</p>

	<p>ごくありますし、皆さんの意に反することを言わないといけないのは大変心苦しいですし、子供たちにとって、もしかしたら私たちの思いは違うかも知れませんが、しかし責任を負う大人として、子供たちにいい環境を作っていくということをやはりやっしていかなければならないとそうふうに思っています。</p>
住民14	<p>どのように分らせるんですか。子供に。子供は帰りたいんです。とにかく。ただ一心です。純粋です。それを大人と議論しているとか皆に良いように今考えているって言うんですか。分かりますか。帰れるか帰れんか分からないと言うんですか。</p>
宮本教育長	<p>子供たちの思いはしっかり受け止めなければならないと思いますけど、やはり最終的に決めていくのは大人なんだろうと思います。その大人が責任を負っていくことだと思しますので、皆の思いは分かるけれども、必ずしもそうならないかもしれない。でもそれはよくよく皆さんから広く意見を聞いたうえで判断したものなんだと子供たちには伝えていく、そういうことではないかと思えます。</p>
住民14	<p>子供のためにという教員の本懐を教育長になったら変えざる負えない時もあると、私は教職の端に身に置いてきた者の一人として恥ずかしいです。終わります。</p>
住民15	<p>私は、先程の〇〇さんと同じく学校運営協議会の委員を20年近く、陰山校長が来られる前からさせていただいて、この学校とは20年来付き合いがありまして、私自体はこの住民でもないですし、OBでもないし、子供自体もここに通わせていたわけでも、保護者でもないんですけれども、でも、16年前から尾道空き家再生プロジェクトという団体をしておりまして、この旧市街地はすごく私は尾道の魅力的な場所だと信じて、古いかもしれないんですけど、不便かもしれないし、トイレも汲み取りかも知れないんですけども、ここには他の街にはない魅力が本当にあつてとても貴重で大事なところだとずっと信じて、そういう思いをくみ取ってくださって、県外からもたくさんの移住者の方がこの16年間で来てくださっています。今もこの学校に通わせて下さっている保護者の皆さんもたくさんいます。この学校と20年間お付き合いする中で、校区外の子供の比率が多くて、それをいかに校区内の子供を増やしていけるかというのを目標にこの16年間頑張ってきました。この10年程は、5年生の皆と空き家問題とか一緒にやっ</p>

てきて、尾道の魅力とか、空き家は悪くなくて古い建物にもちゃんと手を加えていけばまだまだ使えるし、そういうものを大事にする心とか、尾道の郷土愛なんかをしっかりとこの場所で養ってほしいなと思いながら一緒にやってきました。先程話が合ったように、そういった子供たちから、なんでこの建物壊するのとかなんでここダメなのって言われたときに、私は返事のしようがなくて、なんか一生懸命そういうことを伝えてきたつもりなのに、その学校がだめだから他に移りますみたいな、そういうのって本当に教育の根幹的なところで、本当に私はつらい状況にあって、学校で何を教えて来ていたのかなっていうのをすごく感じたりしています。私は、土堂小学校だけではなく、旧市街に三山と尾道水道に囲まれた850年以上歴史のある港町に学びの場があることはすごく大事なことだと思っていて、そこには本当に学ぶ素材や生きた素材がたくさんあって、100年以上も続いている商店街、こんな地方都市でこんな商店街が生き残っているところは他にないですし、もちろん寺社仏閣もたくさんあって、歴史のあるお祭りもあって、本当に学ぶことがたくさんある、歩いたらすぐそこにある、本当にそういう恵まれた土地にある、全国から注目を集めている学校なのにも関わらず、街の中心から外れたところに追いやってしまうのかが、すごくもったいなくて、こういう決断を私が生きていううちにされてなんかすごく嫌だなというのがあって、長い歴史の中で、学校の歴史もありますし、尾道としての長い歴史の中で、これから先のこの街には子供たちが住まなくなるというすごく危険な決断を、大きな決断を今下してしまって本当にいいのだろうかとか危惧して、やっぱり学校づくりというのは、人づくりで街づくりだと思うので、私は郷土で学んだ事を生かして、また尾道に帰りたいと思う子供を育てたいと思って、自分の子供も育てています。やっぱり義務教育の良さは、郷土を学ぶことって私はすごく大事だと思っていて、もちろん基礎学力とか集団行動とかを学ぶところではあるんですけども、特に尾道の地域ではそういう生きた郷土を学べる住民の力もたくさんいただいて学べる本当に珍しい素晴らしい場所だと思うので、そういう本当に魅力がもったいないので、そういう決断をしてしまっているのかどうかっていうのをこの地域のことだけでなしに、尾道全体のこと、ここは尾道の顔であると思っていますし、心臓部であると思っていますので、そういうところのこれからの未来の子供のために、こういう決断をしていいのだろうかというのを、立ち止まって皆さんも考えていただきたいし、行政とか教育委員会を責めるのではなく、やっぱり子供を増やしてこなかった我々住民の責任もあると思っています。皆さんのお子さんがこっちに帰ってきて、

こっちで孫が生まれてきているかっていうとそうでない方もたくさんいるかと思えます。これだけ空き家が増えてきているということは、それだけ皆さんの子供が帰って来ていない人がたくさんいるってことで、それもしっかり我々住民も受け止めてこの街の魅力を失わないように、またこの街に帰って住みたいなと思えるような街づくりを我々住民も一生懸命やっていきたいと思うので、やっぱり外から見ると尾道はいいイメージがあると思うんですよ、でそういう古い建物を大事にしていきながら、少人数制でも学校を地域の人顔が見える形で一緒に学びながらやっているコミュニティ・スクールをがんばってやっているだけで、それでまた尾道の魅力が上がって、すごく格が上がって、だから尾道に移住したいという人が増えると思っていて、都会の真似をするんじゃなくて、逆に尾道にしかないものとか尾道だからできることは逆に何だろうかと考えてそこを売りにして、50年、100年見据えたときに、尾道の街にとっては良いことではないかと思っています。あの、質問ではないんですけども、私の思いを伝えさせていただきました。ありがとうございます。

住民16

私は東御所に住む地域の住民ですが、第2回の地域説明会、前回ですね。教育長さんから、初めて、教育委員会のやり方が皆さんの不安や心配を与えるようなものだったので、反省し、お詫びをするという言葉がありました。ご存知だとは思いますが、私は、非常に教育長さんが替わられて期待を持っていたんですけども、今日のいろいろな答弁を聞いて、がっかりしました。その一例として、適切でないかもしれませんが、私は今回どうしてこんなに揉めているのかなあと考えて、いろんな議事録、教育委員会の議事録、この運動に関する一部の議事録、議会の議事録、いろいろと古い分から関連も議事録をずっと確認して行って、時系列に並べていきました、その中で、2019年市議会のある議員の質問で教育長はかわいそうだという意見がありまして、それはどういうことかと思ったのですが、いま今回の問題と関連するような因島の重井の問題なのですが、統合は重井小中学校はしないとある方が言われたということで、地域の方は安心して学校は残るぞと思っていたと、それを佐藤教育長がおっしゃったのではないということが聞きまして、でも教育行政にかかわる、ましてや統合というのは大きな問題ですから、当然教育長並びに関係者の市教委の方が発言したのかなと思ったそうじゃなくて、はっきり言いますと平谷市長さんが市政報告会でそういうことを出席した人に言われたということを知ったという議事録が載っていました。そこで議事録に基づきまして市教委の方

に確認をしましたら、反論はなくて、そういうことはあるんだと市長が市政報告会に行かれるときには、市教委と当然調整しており、市長が独断で市長報告会で報告されていることではない、ということは私も知っていて調整して報告会で説明をしたんだと説明されました。当然今ここにいらっしゃる市教委の幹部の方に一人いらっしゃいます。どなたかは申しませんが心当たりはあると思いますが、ただこの教育行政のトップは教育長ですから、当然教育行政に関わることについては、やはり教育関係の方から発表なり方針なりを説明すべきじゃないかなと思ったんですが、その議員さんは言葉が適切かどうかわかりませんが、コントロールさせてはかわいそうだというのが本意だったそうです。これは議事録に載っていますから、別に私が捏造して作った話ではありませんし、やはりそういうことがあったんだろうなということが一つ分かりました。ただ、この経緯というか質疑によって、宮本新教育長がどういうふうを考えられて、自分としてどういう方針かというのがまずお聞きしたいと思います。

宮本教育長

まず、教育長という立場ですので、おっしゃるように教育に関係することにおいて責任を負う立場ですので、今いろいろおっしゃっていることについてはそうだなと思うこともありましたけれども、私個人的には何か物事を判断していくときにいろんなご意見があって一致しないことはあることだと思うんです。それは大事なことなんだと思うんです。むしろ皆さんが同じ意見だと精査されて行かない、練り上がっていかないので、いろんなご意見をお持ちだからこそ、より良いものになっていく。そういう側面が人間社会にはあるのだと思います。今も、私達をご提案している選択肢と、皆さんが耐震化して残してほしいという選択肢、これどちらも選択肢としてあることですよ。どちらがだめでどちらかがいいということではないと思います。ですので、どちらがいいのかというのを今も街づくりの観点とおっしゃいましたし、これまでの土堂小学校の誇り高い歴史、また皆さんの地域を衰退させたくない思いとかいろんな観点からご意見をいただきました。でやはり私は教育に携わる責任者として、子供たちにとってどうなのかということをやはり第一に考えていかなければいけないと思ってまして、もちろん街づくりも大切ですし、誇り高き土堂小学校がなくなるというのはそれは校長をしていた者としては非常に辛いものがありますし、いろんな思いがある中で子供たちにとって、安全により良い教育環境で教育を受けられるそれは何なのかということをお子たちにとってどうなのかということをお第一に考えて判断していく。それが私のすべ

<p>住民16</p>	<p>きことだと思えます。そのためには、いろんな人のご意見を聞く必要があると思えます。長江の皆さん、久保の皆さん、またそれ以外の地域の皆さん、市民の皆さん、広くご意見を伺って判断をしていく。それが大切じゃないかなとそう思えます。</p> <p>今の件で、私は無いと思えますが、コントロールという言葉が出てくると何か誰かが指示をすとかいうようなことを思うのは私一人じゃないと思うんです。したがってそういうことは絶対ないと、教育に関することは、トップの教育長として自分の方針を出していく、当然さっきおっしゃったように事前協議とかそういうものは必要ですし、やられると思えますけれど、そういうことでぜひ進めたいと思えます。それから、今回の流れを見て一番最初の一次案の統合案がでて、それから2週間もしないうちに市長が賛同しているんです。この案に。またいろいろ変わったら、また二次案でいい案だから賛同すると。市長が賛成するということは、盛んに市教委の方が気にしている。お金の問題の承認がいただけるという事だろうと思うんですけれど、やっぱりそういうことはあってはならないと思えますので、今後ぜひ、ひとつ教育行政については、しっかりした方針と対策をやりたい。それから、さっきからいろいろありましたように、陰山先生の話が出て参りまして、私も詳しくありませんので、調べてみましたら、陰山先生のやったことについては、2003年でありますか、例の高須小学校の校長先生、並びに教育次長さん二人の要するに自死が発生しまして、尾道市教育員会だけでなく、県とか国の方にも大きな打撃を受けて尾道市教育委員会がどうしようというところに、今の民間の採用した事件を踏まえて公募という形でまた陰山先生がお越しいただいたと、で陰山先生の功績については皆さんの方が詳しいと思えますので、ここでは申しませんが、陰山先生がいろいろツイッターを打っておられまして見ておられる方がおられると思えますが、ここで紹介しておきます「・・・・・・・・(省略)・・・・・・・・」まだ、いろいろありますが、この辺で止めておきます。どうか少しは陰山先生にもリスペクトして教育委員会の後輩職員、それからましてや新しい教育長は最新の後継者ですね。ぜひ、一つ見切り発車をしないでいただきたい。そこでお願いですが、これで皆さんが分かりましたという状況ではないと思えます。ぜひ、次回、土堂地区は、いつこの説明会をするのかはっきりと明確にさせていただいて終わるようにして欲しいと思えます。以上です。</p>
-------------	---

住民17	<p>ありがとうございます。皆さんの力強いご意見を聞いて胸が熱くなりました。この土堂地区の今日の説明会で皆さんの意見を聞かれて、今の統合案は、このタイムスケジュールは、9月議会に予算を上程しないと今のタイムスケジュールは間に合わないと、使命として9月議会に予算を上程するというふうなお考えと聞いております。でも今日の地域説明会での皆さんの思いをしっかりと受け止めていただいたのであれば、どこかのタイミングで決断しなければならないと何回も教育長はお話ししていますが、そのどこかのタイミングをまさか9月の議会に向けて予算を上程すると考えられているのでしょうか。それは決してすべきことではないと思います。まだまだ地域の思い、そして子供たち、保護者の思いをしっかりと聞き入れていただいて、まだ判断を下すタイミングではないと思います。立ち止まってもっともっと皆の尾道市民の意見をしっかりと受け止めてください。口では、教育長優しい口調で皆さんのお気持ちは分かりますと本当に言ってくれているんですけども、最後にはいつも、もう決まったことだからそれをただただそこに向かって大きな箱モノを作るためにタイムスケジュールを進めているとしか思えません。どうぞどうぞ、次の議会に上程するのは止めて欲しいと思うので、この予算を。ましてや、64億という大きな予算ではなく、設計料として少しでも小さい予算で通そうとされていると伺いました。教育長、このことについてどのようにお考えでしょうか。予算を上程しないとここで断言していただきたいのですが、よろしく願いいたします。</p>
宮本教育長	<p>まだ、何も決まっていませんし、何も判断はしておりません。こうやって皆さんのご意見を伺う、また、他の地域のご意見を伺う、また、保護者の皆さんのご意見・お考えを引き続き聞かせていただいて、判断をしていくということしか今申し上げることができないというところです。</p>
住民17	<p>ありがとうございます。では、どこかのタイミングで判断しなければいけないというそのタイミングをどういうふうにお考えなんですか。</p>
宮本教育長	<p>令和7年度4月に今教育委員会としては統合して、令和9年度に新しい校舎で出発していくというそういう案を皆さんにお示ししているわけですよ、令和7年に3つの小学校が一緒になると仮に想定するとやはり準備期間が1年半は必要だということで9月というの一つの焦点化されていることじゃないかと思えますし、教育委員会も令和7</p>

年度に3つの小学校を一緒にした新しい学校にするということになれば、1年半前のもうすぐのタイミングが判断するタイミングになるというのはどこかの説明会で申し上げたと思います。でも、皆さん、こういったご意見を今日たくさん聞かせていただいていますし、また、これから保護者の皆さんのご意見も伺っていくタイミングですので、決して前回も言いましたけど、スケジュールありきで物事を進めようとは思ってはおりませんので、しっかり皆さんのご意見を聞いて、土堂の皆さん、久保の皆さん、長江の皆さん、そして保護者の皆さん、そして他の地域の皆さん、いろんな方々のご意見を聞いて、判断をしていく。ただ、そう長く待つっていうのも、子供たちに仮設校舎での生活がそれだけ長くなりますので、その辺りも私としては悩んでいるところで、そのあたり悩ましいところだなあと思いつつ、皆さんと議論しているところです。

住民17

ありがとうございます。私も、教育長が言われる、いま仮校舎にいる子供たちがかわいそうだから、何とか早くというのは、地域の住民としても、それが一番です。それを考えたときに、私達はいま仮校舎にいる子供たちにとっても、そして未来の子供たちにとってもいま私達が判断できるベストな方法は、現地を、今のこの土堂小学校を耐震化して、一刻でも早く今の仮校舎にいる子供たちにこの伝統の校舎で、この神様がいるこの学校で学ばせてあげる日にちを少しでも長くしたいというそういう強い思いがあるから、これだけ皆さんが、地域の皆さんも集まられているんだと思います。その気持ちを十分汲んでいただきたいと思いますし、その子供たちの気持ち、子供たちを本当にこの校舎でしっかり早く学ばせあげたいというのが一つあります。それと64億円という大きな予算です。この予算を決めるのは、尾道市長が決定権を持たれているのか、これを上程するというか、計画する編成権を尾道市長が持たれていると聞きました。それをしっかり受け止めて教育委員会は、この統合案を進めていると思いますが、でも子供たちの事を一番に考えたらどうあるべきかを原点に戻ってしっかり考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。そして、9月議会にはぜひこの予算を上程しないということをお約束していただきたいと思います。

宮本教育長

今ここで、残念ながら、お約束はできないんですけども、引き続き皆さんのご意見、保護者の皆さんのご意見、いろんな地域の方々のご意見を聞いてそれで慎重に判断をしていくということしか今の段階では申し上げられないかなと思います。

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>他に意見・質問もあるかと思うんですが、時間も経過しておりますので、このへんで終わらせていただければと思うんですが・・・</p> <p>（住民：何を言っているんだ。何を。なんで人数を数えたんだ。）</p> <p>すみません。それでしたら、今手を挙げてる3人の方、最後の質問ということで、お願いいたします。それでは、前の方から。</p>
<p>住民5</p>	<p>前回の土堂の説明会と久保の説明会だったと思うんですけど、佐藤教育長の時に、一人でも合意形成がない場合は、前に進めないという約束を皆さんの前でされたと思うんですよね、その議事録を宿題として持ち帰りますということだったので、教えてください。あと、そのことについて、議事録に載ってようが、載ってまいが、どうお考えかということをお聞かせください。結構、皆さんの前で断言されているので、重い発言だと思うんですよね。その辺をお聞かせください。よろしくお願いたします。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>議事録には、それは、確認できなかったというふうに聞いております。で、一人でも反対があったら、合意形成出来なかったらということについては、私はそうは思っていないくて、やはりいろんな考えがあり、意見が分かれることは当然あるわけですから、それはしっかりいろんな議論をする中で、分かり合えるところは分かり合っていくし、やっぱり何回話し合っても、なかなか意見が合意できないということも当然人間ですからあると思いますので、その時は、どちらがよりいいのかというのは、判断を仰ぐということなんだと思います。</p>
<p>住民5</p>	<p>はっきりと合意形成ができるまでは前に進めないってことを、だから合意形成できるまで努めていきたいっていう、皆さんに説明を尽くしていきたいっていう話を、説明会の最後に大きな声でされてました。あの、多分聞かれている方もおられるんだと思うんで、教育委員会の方にも、ちゃんと思い出して、議事録にも書かれないんですかね、都合の悪いことは書かれないんですかね、ちょっとわからないですけど、もう一回ちゃんと調べていただいて、佐藤前教育長にも確認を取っていただきたいと思います。動画を取っている方、何人かテレビ局の方も残っているかと思うんで、そういった録音も確認していただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>住民1</p>	<p>先程から、陰山校長の話が出ていますが、子供がちょうど小学校に入</p>

った時は〇〇校長でした。この方は、低学年はしつけの時間だとちゃんと挨拶ができるようにしましょう、高学年は長所を見つけて伸ばすようにしましょう、という教育をしておられました。それで私が聞いたときに職員室の窓ガラスが全部すりガラスでした。で、なんで子供たちが見えないようにしているんですか、という話をしたら、じゃあ教育委員会に予算をもらって替えますという話をしました。ところが返事は、予算がないからできない、来年度見積書を出してくれと話が返ってきたので、〇〇校長は自分のお金で全部透明ガラスに替えられました。で子供が4年生の時に陰山校長が来ました。陰山校長は、パソコンを各学年に貸し与えました、大変、教育委員会はすごいお金を出したんですねと話をしたら、教育委員会がお金を出すわけがないでしょう。と言って百ます計算が売れたんで私が自費でパソコンを購入しました。という話をされました。また、親しくなった先生は、報告書、レポートを提出するために子供と一緒に遊べない、教えてあげられないと言って嘆いていました。別の先生は書類の作成のために我が子の寝顔しか見られないと言っていました。まあ、教育委員会というのは、先生方をスポイルするためにあるのかなあとその時思っていました。子供の様子が見えていない、ただただ金太郎飴を作ろうとしているようにしか、外から見ていると見えません。現在、当初は耐震性がなくて工事ができないことを理由に強制的に山の上まで移転させたが、出来ることを論破されたら、次は、全寮制中高一貫校の叡智学園を持ってきたが、卒業生も出ていない評価の出ていないシステムを取り入れると言っているが、初めに箱ものありきで論理の一貫性がまるで見えない、またコミュニティ・スクール制度が出来ても一切無視されています。今後、チャットGPTを初めとしたAIの進歩により、黒板に全員が向かい板書で説明していた今までのやり方はもう無くなって、タブレットでその子の進度に合わせて教えるシステムが変わってくると思います。パソコンのディスプレイを見ながら学んでいくようになると思っています。それから、質問です。市の恣意的変更により入学者減数になっている、つまり陰山先生の前くらいには自由選択性であって、長江小学校、土堂小学校は断らなければいけない程募集がきました。それを教育委員会は数を絞って絞って絞って山の上まで上げてしまったから入学者が減っているんです。分かっていますか。それから吉和小学校、平原から通うの止めにした理由はなんでなんかなというのが頭にありました。それから三幸小学校は父兄が反対するから移転していませんと話がでましたが、父兄が反対したらここもそうなるんですか。で、3点目、評価、結果が出ていない叡智学園より庄原の川北小学校や福山の〇〇学園を勉強して

<p>小柳学校教育部長</p>	<p>それを先生方のレベルアップに使う方がよっぽど有効なんじゃないかなと思ってはいます。教育委員会の仕事は、コミュニティ・スクールの対応を充実させていくこと、それからA Iの対応、それから他府県からの子育て世代の移住促進を、上ばっかりみて千数百万円所得があり次の食い口も紹介してもらえるから、そりゃ黒を白と言われれば白というんでしょうけれど、上ばっかり見ずに、市と共同で本当に子供のため、伝統と歴史のある小学校のために、何が必要なのかということをしつかりと考えていただきたいと思います。質問にお答えいただくのは、次回でも構いませんので、よろしくお願いします。</p> <p>まず、1点目に学校選択制度があったと思います。学校選択制度は平成16年度入学児童生徒から導入して現在に至っていますけれども、途中のところで、土堂小学校それから長江中学校については、35人なし40人枠で学級増をしていくという取組をしてきましたが、地域コミュニティの衰退につながっているとか、学級集団が作れなくなってきている学校もあるということで、議会でもかなり批判を受けてきた経緯もありまして、平成30年度に市民アンケートも取らせていただく中で、見直しを図ってまいったところでもあります。学校選択制度については、一定の理解を得られているということで、制度は継続する、けれども各学校の公平間差、義務教育の均一を図るという観点から、5人枠または10人枠ということで学校の基礎人数、1学級あたりの人数に応じて、5人または10人に枠で全校統一させていただくことになっております。ですから、それに基づいて市内やっておりますけれど、この土堂、長江、久保につきましては、将来の学校のあるべき姿、人数を計算させていただいて、昨年度から5人枠で実施させていただいている。復活させていただいているところです。</p> <p>(住民：それが、おかしいと言っている。)</p> <p>それから、三幸小学校ですけれど、これは前回の説明会でも、こちらでも話題になったと思いますが、三幸小学校については、校舎が耐震化がさせているということと当面複式学級にならないということで、現在も複式学級になっておりませんが、そういったことで保護者から理解が得られずに現在のそういった状況になっており・・・</p> <p>(住民：質問のすり替えばかりだ。本当の質問の答えをしてくれ。)</p> <p>いえいえ、三幸小学校は、そういうことで、土堂小学校と置かれている現状は違うということです。</p> <p>それから、統合についてですけれど、他の学校を学ぶということで、一つの学ぶ例として教育長の方も叡智学園の方を挙げさせていただ</p>
-----------------	--

いています。ですから、私たちが視察に行っていたり、学んでいる学校というのは、叡智学園だけではなくて、呉市の小中一貫教育校や、府中市の小中一貫教育校や、岡山市にある学校等も見させていただく中で・・・

(住民：どうして小中一貫校ばかり見るんだと言っている)

それは、岡山の学校は、小中一貫教育校ではありません。ただ、私たちの目指している学校は、小中一貫教育校ですから、尾道の学校を小中一貫教育校にした場合、やはりどのようなことを考えていかなければならないのか、子供たちの様子はどのようなものか見させていただいたうえで、今こうして案をお示しするに至っているというところでございます。

(住民：なぜ6・3制ができた検討はされたのか)

6・3制というのは、学校制度が始まってやっていますが、基本的には戦後の昭和20年以降の義務教育制度になってからの事だと思えますけれど、子供たちの発達段階を当時踏まえたうえで考えた中で、6・3・3というのが築きあげられた、そういうふうに私どもは認識しております。

(住民：じゃあ全国全部9年制になるんですか)

6・3の義務教育をどのように、子供たちの教育をしていくかっていうと、今で言いますと6・3の枠を守る小中学校、それから6・3の枠を守りつつも小中一貫教育校、それから6・3を合わせた義務教育学校がありますけれども、各自治体においてやはり子供たちにとってどのような教育が各自治体においてふさわしいのか考えたうえでされていると思います。ですから、私たちも今後の将来の学校の在り方を考えた中で、少子化が進んでいくであろう、そういった中で小学校・中学校を単独で残した方がいいのか、それとも統廃合していった方がいいのか、それが小中一貫教育校や義務教育学校がいいのか考えさせていただいています。

住民8

すいません。質問ではないんですが、ちょっとお願いがあります。子供たちの安心・安全のためって言われるんですけど、ぜひ余分にかかる22億円、これの予算を教育委員会から市の方に取りにいただけないでしょうか。どこからかつけてくださいというふうにお願いはいただけないでしょうか。安全が第一と言われていたんで、それでしたら、議論を伸ばして何年後、何年後ではなく、この22億すぐ予算どこかから、図書館を造る18億円とか他にあると思うんですよ、それを市の方に教育委員会からお願いして欲しいと思います。よろしくお

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>願いたします。</p> <p>質疑・応答は、これで終わりにさせていただきたいと思います。 （住民：次の説明会はいつするのか教えてくれ）</p> <p>最後に、小柳部長の方から回答させていただきたいと思います。それでは、最後に小柳部長から閉会の挨拶を行います。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>5 閉会挨拶</p> <p>本日は、第3回土堂小学校区地域説明会として、主には前回頂いた意見として土堂小学校校舎の耐震化でありますとか適正な学校規模の確保等について回答や説明させていただき、そのあとご質問・意見等をいただきました。私たちは、未来を担う子どもたちのために、尾道のモデルになる小中一貫教育校を強い思いをもって実現したいという気持ちは変わらないと思っておりますけれども、そのために教育内容の充実に向けていろんなことを整えていきたいというふうに思っています。それで、7月24日月曜日から第3回保護者説明会を各小学校・各中学校、6小中学校を回らせていただいて、その後に各地域で説明会を開催させていただきたいと思います。ですから、土堂小学校区については、第4回説明会を開催させていただきたいと思っておりますが、日時については、地域の代表の方と調整をさせていただきたいと思っております。ただ7月中は学校の方を回らせていただきますので、8月になるかと思っております。地域、保護者、学校、教育委員会で力を合わせて未来を担う子供たちのために新しい学校を創っていかれたらと思っております。説明会にお集まりいただきどうもありがとうございました。</p> <p>21:55 終了</p>

※議事録中の住民を示す数字は一連の質問の流れを示すものであり、異なる数字であっても、同一の方のご発言である場合があります。